

# 研

平成 25 年度

—研究紀要—

けん

《 25 号》



大館市教育研究所

# 目 次

I	はじめに								
○	「ふるさとという川のひとしづく」	大館市教育委員会	教育長	高橋 善之	…	1			
○	県外の学力向上学習会で伝えきれなかったこと	大館市校長会	会長	田山 義貴	…	2			
II	第25回大館市教職員研究実践発表会要項				…	3			
III	第25回大館市教職員研究実践発表会 発表者・発表題一覧				…	4			
IV	第25回大館市教職員研究実践発表会 発表内容								
1	キャリア教育の視点を活かした生徒の主体的な学習を引き出す授業づくり	大館鳳鳴高校	教諭	肥田 宗友	…	5			
2	ロボットを活用した人材育成へのチャレンジ ～教育機関と企業の連携した組織の設立と取り組み～	秋田県北地域ロボット 人材育成実行委員会	事務局長	徳田 孝明	…	7			
3	大館市の未来を拓く公立保育園の使命と役割 ～満5歳すてっぷ相談、子どもハローワーク等の取組から～	大館市子ども課 <small>秋田県立保育園</small>	課長補佐 園長	石川 恵美子 佐藤 栄史子	…	9			
4	体験の風をおこそう	大館少年自然の家	所長	畠 修	…	11			
5	閉校、統合と子どもたち	東館小学校	教頭	乳井 昭久	…	13			
6	「望ましい学びの場を求めて」～日々のコーディネートから～	第一中学校	教諭	大澤 修	…	15			
7	通常学級における特別に支援を必要とする児童への支援の在り方	扇田小学校	教諭	間嶋 祐樹	…	17			
8	自分の考えを生き生きと表現できる子どもの育成 ～算数科の学び合いを支える取り組み～	城南小学校	教諭	田村 美穂子	…	19			
9	単元を貫く言語活動の実践 ～読むことの指導について～	桂城小学校	教諭	中井 みどり 山本慎子 金 圭子	…	21			
10	ワークショップ型授業を取り入れたふるさと学習	東館小学校	教諭	田村 秀人	…	23			
11	社会科における地域素材の教材化	城西小学校	教諭	佐藤 健	…	25			
12	地域の一員として全校で取り組む総合的な学習の時間	下川沿中学校	教諭	岸 博之	…	27			
13	いきいき やませっ子 夢プラン ～ふるさとを知り、ふるさとのよさを生かして～	山瀬小学校	教諭	奥山 法子 高橋美和子 保坂 久	…	29			
14	本校の体力向上に向けての取組 ～校内駅伝大会を中心として～	長木小学校	教諭	平山 雄也	…	31			
15	ものづくりを通じた高校生の社会体験活動	大館工業高校	教諭	草皆 和幸	…	33			
16	秋田県の学力向上に向けた取組について	城南小学校	教諭	樋渡 正	…	35			
17	話そう！伝えよう！自分の気持ち ～自分の言葉でのびのびと表現できる子どもを目指して～	真中保育所	保育士	虻川美保子 加賀谷 紫工藤 悠	…	37			
18	「心と体の冒険！プロジェクト アドベンチャー ～よりよい人間関係をつくるために～」	大館少年自然の家	研修員	宮野 英法	…	39			
19	よりよい人間関係を育む生徒の姿をめざして ～スクールカウンセラーの活用を通して～	第一中学校	教諭	藤内 貴典 佐々木 司 千葉留美子	…	41			
20	熱く挑戦、感動を共有～集団の高まりを目指した東中Family～	東中学校	教諭	安部 寛 鶴ヶ崎和華子 石垣 修 小川健介	…	43			
21	人がつくる 技を極める ふるさとの匠に学ぶ大館曲げわっぱ	田代中学校	教諭	成田 麻衣	…	45			
22	小学校低学年におけるユニバーサルデザインを意識した学級・授業づくり	成章小学校	教諭	宮野 田鶴子	…	47			
23	思考力・表現力を育てる授業はどうあればよいか ～6年算数科の授業実践を通して～	南小学校	教諭	和泉 克子	…	49			
24	「先生、オレ、何に向いているかなあ？」 ～「自分とは」と問い続け、自己の未来を見据えるキャリア学習～	有浦小学校	教諭	田村 直子	…	51			
25	進んで社会を見つめ、自ら働きかける社会科学習 ～社会科＋総合的な学習の時間＝大館ふるさとキャリア教育～	東館小学校	教諭	山本 起嗣	…	53			
26	「ひまわりプロジェクト」から生まれた学年プロジェクト	釈迦内小学校	教諭	小林 要 庄司 静香 細田 裕子	…	55			
27	地域に根ざしたふるさとキャリア教育「とびっきりの上川沿」の実践	上川沿小学校	教諭	伊藤 薫 櫻庭晴美 津谷 徹 川崎 裕 畠山真由美 井川良太郎	…	57			
28	生活習慣とメディアについて ～健康的な生活習慣を確立するために～	西館小学校	養護教諭	渡邊 香子	…	59			
V	大館市教育研究所事業報告				…	61			
VI	あとがき								



## 「ふるさとという川のひとしづく」

大館市教育委員会 教育長 高橋 善之

2月14日、十二所地区の「かまくらやき」に出かけた。長年途絶えていた小正月行事が地元の方々により数年前から復活されたとのこと。夕刻、周囲の雪壁に穿った幾十もの小さな雪洞に蝋燭が点され、広場の篝火を中心に50人ほどが集った。角館の「火ぶりがまくら」と同様、2mほどの縄を結わえた俵に火をつけ身体を中心に回す火祭りであるが、十二所では俵の中に落葉樹の枯葉が仕込まれている。周りに勧められ、私も火振りに参加した。片手で縄の端を高く掲げ、緩急をつけると安全かつ制御もしやすい。火炎の輪の中の空間は眩い光と熱気が渦巻き、風切り音と発火音が入り混じった「ゴー・ゴー」という音に原始の感性が蘇える。火の粉は、菅江真澄が「雪上に紅葉」と評したごとくに紅く舞い散る。お年寄りも昔日を懐かしむようにゆったりと、父親世代は勇壮にぶんぶんと、そして、子どもたちは元気にくるくると回す。熱い甘酒を啜りながら、先人の願いとふるさとの原風景を次の世代へと伝えるべく、「かまくらやき」復活にかけた地元の方々の静かな心意気に深く共感を覚えた。

その帰り道、上川沿地区にあるGSに立ち寄り給油をしていたら、反対側で給油中の車から降りてきた女の子に「こんばんは！」と声をかけられた。あわてて挨拶を返し、「どこの小学校ですか？」と尋ねると、上川沿小の2年生だという。「ああ、いいあいさつができますね。」と誉めると、すっと近寄ってきて私を見上げながら「あなたは、立派な人ですね！」と誉めてくれた。給油が終わり、さよならしてその子は自分の車に戻ったが、それにしても小学校2年生に「立派」と誉められたのは人生初めてのこと。大人たちの心に勇気と希望を呼び覚ます春の息吹のような力、それは子どもだけに備わっている不思議な力である。

「大館の未来を切り拓く人財の育成」を目的となし、「ふるさとキャリア教育」を根幹とする教育を展開し始めて3年になる。幸いなことに、志を同じくする方々とのネットワークも次々と繋がり、当面の目標であった教育機関による0～20歳までの「縦の一貫」、学校を核とした地域社会・産業界との「横の連帯」の構築も大きく進展した。「ふるさとキャリア教育」の理念と独創性は県内外からも高く評価され、文部科学大臣表彰を始めいくつもの全国表彰をいただいた。しかし、それはあくまで余録である。「ふるさとキャリア教育」の究極の目的は、未来社会として具現されるものであり、その前提として、現在の地域社会や子どもたちの中に、その目指すべき姿が形成されていかなければならないと考えている。

執務室の直下に米代川が流れる。大館盆地のすべての河川がそそぎ込み、豊かな水流となり西へと下る。盆地を取り囲む山々から湧き出す水を源とし、古来より乾期にも厳冬期にも水枯れしない川である。「かまくらやき」の復活も、あの女の子の振る舞いも、ひとしづくの水としてふるさとの川へと流れ込んでいく。私も、ふるさとという川の一滴でありたいと思う。



## 県外の学力向上学習会で伝えきれなかったこと

大館市校長会 会長 田山 義貴

学校最大の文化的行事である学芸会成功の余韻に浸っていた11月のある日、元義務教育課長の橋田先生から突然電話をいただき、A県B市立C小学校で行われる学力向上にかかる学習会の講師を依頼されました。

当該校では、学力向上のために「モラールアップ委員会」なる校内組織があり、第1回目は北海道教育委員会の方が講師を務め、秋田県の学力向上の取組を紹介したとのことでした。その話を受け、「秋田県の先生に来ていただいて直接話を聞こう」ということになり、人と人とのつながりをたどって、私というより、有浦小学校に白羽の矢が立ったという次第でした。

12月上旬の土曜日、本校所属の教育専門監と一緒に出かけました。相手先の状況（ニーズ）について打ち合わせる時間も少なかったことから、学力向上のためには、例えば算数であれば、「本時の学習→本時の評価問題→単元評価問題→学習状況調査→全国調査」という秋田県のシステム（流れ）が有効であることを紹介しました。

しかし、これは外から見える一面であり、学校全体という視点から考えると

- ① 保護者・地域社会との信頼関係
- ② 児童生徒のキャリア発達の支援
- ③ 教職員の意識の高揚

ということが基盤となることから、持続可能な学力向上対策を考えたときには、大館市で取り組んでいる「ふるさとキャリア教育」が大きく貢献していることを伝えなかったのですが、この部分については時間の制約もあり、十分伝えることができませんでした。

この「ふるさとキャリア教育」が学力向上に大きくかかわっているということについて、私には一つの確信がありました。それは、平成25年度の県学習状況調査で、大館市の4～6年生の成績がすべての学年・教科で全県平均を超えていることでも裏付けられるのですが、例えば、第25回大館市教育実践発表会の28本の発表中、約3分の1が「ふるさとキャリア教育」に関連していること。「ふるさとキャリア教育」の取組によって、児童生徒の学びが地に足の着いた本物の学びに近付くことで児童生徒が自らの在り方生き方を考えるまでに変容し、それを目にした教職員が元気になり、保護者や地域から高く評価されることで学校全体が自信を持っていることが根底にあると感じました。学力向上のためには、学校としての学力向上システムも大事ですが、システムを支えているのは、保護者・地域からの信頼であり、教職員の自信であるということを感じさせられました。

「大館盆地全体を教室に、市民一人一人を先生に」という「ふるさとキャリア教育」の実践は、保護者・地域からの信頼を得ることにつながり、すべての児童生徒の学力を支えています。

## 第 2 5 回 大館市教職員研究実践発表会要項

- 1 目 的 日常の教育実践・研究の発表を通して、子どもたちの可能性を伸ばすよりよい指導方法の追究と教職員の資質の向上を図る。
- 2 主 催 大館市教育委員会
- 3 主 管 大館市教育研究所
- 4 期 日 平成26年1月10日（金）
- 5 場 所 大館市立中央公民館・大館市民文化会館
- 6 内 容 ・教科指導・総合的な学習の時間・情報教育・特別支援教育・就学前教育・海外研修などの教育諸活動全般について  
 ・第7次学力向上対策の共通実践事項の取り組み等について  
 ・日常、学級や学年、または校務担当者として実践研究していることについて
- 7 対 象 ・小学校・中学校の全教職員及び幼稚園・保育所、高等学校、大学等教育関係者
- 8 日 程 12：50～13：30 発表会Ⅰ（40分）  
 13：45～14：25 発表会Ⅱ（40分）  
 14：50～15：00 全体会  
 15：00～16：35 講演会・閉会  
 17：30～19：30 懇親会
- 9 講演会 講師 秋田大学（教育学研究科・教育文化学部）教授 井門正美 氏  
 演題 「実践キャリアアップ教育～役割体験学習論からの教育改革～」
- 10 実行委員 実行委員長 樋口 慎一（東中） 副委員長 松下 健（西館小）

No.	所属校	氏 名	No.	所属校	氏 名
1	桂城小学校	小畑 大樹	15	西館小学校	松下 健
2	城南小学校	福司 登志子	16	東館小学校	河田 洋子
3	城西小学校	近藤 智弥	17	早口小学校	鈴木 岳行
4	有浦小学校	川崎 郁子	18	山瀬小学校	平澤 正明
5	釈迦内小学校	鳥谷 幸代	19	第一中学校	佐々木 司
6	長木小学校	望月 まゆみ	20	第二中学校	中嶋 舞衣子
7	雪沢小学校	糸屋 幸	21	東中学校	樋口 慎一
8	川口小学校	明石 まき子	22	下川沿中学校	日景 美智子
9	上川沿小学校	石垣 真紀子	23	南中学校	武田 亜子
10	南小学校	淡路 雅子	24	成章中学校	小林 良子
11	成章小学校	佐藤 衛	25	花岡中学校	羽澤 加律子
12	花岡小学校	瀬尾 英子	26	矢立中学校	本多 牧子
13	矢立小学校	一関 景子	27	比内中学校	田村 環
14	扇田小学校	三澤 よし恵	28	田代中学校	古家 葉子

第25回「大館市教職員研究実践発表会」発表者及び発表題

時間帯	No	発表者	所属	発表題
I	1	肥田 宗友	大館鳳鳴高校	キャリア教育の視点を活かした生徒の主体的な学習を引き出す授業づくり
	2	徳田 孝明	秋田県北地域 ロボット人材育成 実行委員会	ロボットを活用した人材育成へのチャレンジ ～教育機関と企業の連携した組織の設立と取り組み～
	3	石川 恵美子 佐藤 栄史子	子ども課 釈迦内保育園	大館市の未来を拓く公立保育園の使命と役割 ～満5歳すてっぷ相談、子どもハローワーク等の取組から～
	4	畠 修	大館少年自然の家	体験の風をおこそう
	5	乳井 昭久	東館小学校	閉校、統合と子どもたち
	6	大澤 修	第一中学校	「望ましい学びの場を求めて」～日々のコーディネートから～
	7	間嶋 祐樹	扇田小学校	通常学級における特別に支援を必要とする児童への支援の在り方
	8	田村 美穂子	城南小学校	自分の考えを生き生きと表現できる子どもの育成 ～算数科の学び合いを支える取り組み～
	9	中井 みどり 山本 慎子 金 圭子	桂城小学校	単元を貫く言語活動の実践 ～読むことの指導について～
	10	田村 秀人	東館小学校	ワークショップ型授業を取り入れたふるさと学習
	11	佐藤 健	城西小学校	社会科における地域素材の教材化
	12	岸 博之	下川沿中学校	地域の一員として全校で取り組む総合的な学習の時間
	13	奥山 法子 高橋美和子 保坂 久	山瀬小学校	いきいき やませっ子 夢プラン ～ふるさとを知り、ふるさとのよさを生かして～
	14	平山 雄也	長木小学校	本校の体力向上に向けての取組 ～校内駅伝大会を中心として～
II	15	草皆 和幸	大館工業高校	ものづくりを通じた高校生の社会体験活動
	16	樋渡 正	城南小学校	秋田県の学力向上に向けた取組について
	17	虻川美保子 加賀谷 紫 工藤 悠	真中保育所	話そう！伝えよう！自分の気持ち ～自分の言葉でのびのびと表現できる子どもを目指して～
	18	宮野 英法	大館少年自然の家	心と体の冒険！プロジェクト アドベンチャー ～よりよい人間関係をつくるために～
	19	簾内 貴典 佐々木 司 千葉 留美子	第一中学校	より良い人間関係を築く生徒の姿をめざして ～スクールカウンセラーの活用を通して～
	20	安部 寛 石垣 修 鶴ヶ崎 和華子 小川 健介	東中学校	熱く挑戦、感動を共有～集団の高まりをめざした東中Family～
	21	成田 麻衣	田代中学校	人がつくる 技を極める ふるさとの匠に学ぶ大館曲げわっぱ
	22	宮野 田鶴子	成章小学校	小学校低学年におけるユニバーサルデザインを意識した学級・授業づくり
	23	和泉 克子	南小学校	思考力・表現力を育てる授業はどうあればよいか ～6年算数科の授業実践を通して～
	24	田村 直子	有浦小学校	「先生、オレ、何に向いているかなあ？」 ～「自分とは」と問い続け、自己の未来を見据えるキャリア学習～
	25	山本 起嗣	東館小学校	進んで社会を見つめ、自ら働きかける社会科学習 ～社会科＋総合的な学習の時間＝大館ふるさとキャリア教育～
	26	小林 要 庄司 静香 細田 裕子	釈迦内小学校	「ひまわりプロジェクト」から生まれた学年プロジェクト
	27	伊藤 薫 櫻庭 晴美 津谷 徹 川崎 裕 畠山 真由美 井川 良太郎	上川沿小学校	地域に根ざしたふるさとキャリア教育 「とびっきりの上川沿」の実践
	28	渡邊 香子	西館小学校	生活習慣とメディアについて ～健康的な生活習慣を確立するために～



## キャリア教育の視点を活かした 生徒の主体的な学習を引き出す授業づくり

秋田県立大館鳳鳴高等学校 教諭 肥田 宗友

### 1 はじめに

長引く不況、雇用システムの変化、グローバル化、情報化、数十年後を見据えた進路指導不足等を原因として、若者の勤労観、職業観が低下してきた。このような背景からキャリア教育の必要性が叫ばれて久しい。当地でも大館ふるさとキャリア教育やキャリアノートの配付をはじめとする様々な取組みが実施されている。しかし、少子化や社会の変化により競争が減り、求めれば与えられることが多くなった社会において、依存傾向は増大しており、主体的に将来を考え、学び、実行している生徒は少ない。本校は地域の拠点校として、生涯学習の基礎となる自主的・自立的精神や高い志をもった生徒の育成を進めている。また、本年度、科学リテラシーと国際性の向上を柱とした新たな計画でスーパーサイエンスハイスクールに指定された。地域を支え、世界へ羽ばたける人材を育成するための一つの取組みとして、キャリア教育による主体的な学習を引き出す授業づくりを試みているので報告する。

### 2 活動の実際

#### (1) ALT との生物基礎の授業

##### ① ねらいと方法

国際的に活躍する基盤を築くために、ALT との TT により 1 年生 6 クラスに対し、英語で授業を行った。英語に苦手意識を持っている生徒でも参加しやすくなるように、次の通り実施した。実験の授業とし、中学校で学習した体細胞分裂の観察に高校の内容を加えた。事前の授業で ALT が実験の概要を説明し、当方が日本語で補足した。実験プリントは日本語にして、キーワード等に英訳を付した。

##### ② 結果

アンケートの結果は以下の通りであった。

	5	4	3	2	1
Q1: Was the class interesting or fun?	59.8%	37.8%	1.9%	0.5%	0.0%
Q2: Was it useful to have English in the class?	23.0%	43.5%	29.7%	3.3%	0.5%
Q3: Would you like to do another class in English?	26.3%	40.2%	25.8%	5.7%	1.9%
Q4: Did you come to understand cell division?	23.4%	54.5%	20.1%	1.9%	0.0%

「どうしたら良い取組みになるか」との質問に対して、以下の声(一部抜粋)が寄せられた。

- ・単発でなく、継続的に実施する。
- ・生徒各々が意識を高く持ち、積極的に英語を使うようにする。
- ・日本語を使わせない。プリント等も英問英答にする。
- ・様々な教科の ALT を配置したり、ALT と話す機会を増やしたりする。

#### (2) 授業でのプリント配付

##### ① ねらいと方法

学習意識を改善し、主体性を育成し、将来設計に役立てるために、なぜ勉強しなさいといわれるのかを手始めに、自身を客観視できるデータ、大学進学以降の道筋などを示したプリントを1年生の生物基礎の授業で配付し、体験談を加えて口頭で説明した。また、授業は社会や将来との結びつきや、論理的思考力を身につけさせることを意識した。

## ② 結果

授業開始から約半年後のアンケート結果と生徒の感想(一部抜粋)は以下の通りであった。

	5:非常に思う	4:やや思う	3:どちらともいえない	2:あまり思わない	1:全く思わない
Q1:学習の意識が改善された	21.5%	59.5%	18.0%	1.0%	0.0%
Q2:主体性の育成に役立つ	43.6%	43.6%	10.8%	2.0%	0.0%
Q3:進路選択を含め、将来に役立つ	38.5%	38.5%	21.5%	1.5%	0.0%

- ・質問したいことが出てくる(興味がわいてくる)授業が好きです。なぜかの答えもしっかり解決することが出来ることも好きです。
- ・習っている分野と社会との関わりについても聞けるので、とても為になるし興味を持てる。
- ・経験に基づいたお話しは楽しみである。どのプリントも便利で気付くことが多々ある。
- ・「もっとやらないといけない」と思うようになりました。

## (3) 生徒による授業

### ① ねらいと方法

(2)の取組みで教員志望者の評価が低い、準備の重要性を認識していない、分かっていることを相手に伝えることが苦手な生徒が多い等の問題があった。主体性の育成のみならず、職業体験、受け身で授業に臨む姿勢の改善、他者に対する説明方法の習得など将来に役立つ力の養成のために、生徒が先生役となる授業を複数回実施した。

### ② 結果

アンケート結果は以下の通りであった。

	5:非常に思う	4:やや思う	3:どちらともいえない	2:あまり思わない	1:全く思わない
Q1:主体性の育成に役立つ	51.7%	40.5%	7.3%	0.5%	0.0%
Q2:将来に役立つ	52.7%	39.6%	5.3%	2.4%	0.0%



図1. 授業の様子

生徒の感想について、文章は様々であったが、将来に役立つ、主体性が養われる、授業の理解度が増す、質問しやすいなど、肯定的な意見ばかりであった。

## 3 まとめ

アンケートの結果から、キャリア教育の視点を活かした授業で主体性を育むことは可能だと考えられた。キャリア教育の手法は、学校や教員によって様々であるべきだが、より効果を高めるためには、目的が明確、かつ卒業後だけでなく、数十年後も見通した一貫性のあるキャリア教育の計画、及び各人への指導が必要だと考えられる。多くの人間にとって、キャリア教育を通じた進路決定は、一度しかない人生に大きな影響を及ぼす。その教育に携わる立場であることを念頭に、イノベーションを引き起こせる人材を育成すべく精進していきたい。





## ロボットを活用した人材育成へのチャレンジ

～教育機関と企業の連携した組織の設立と取り組み～

秋田県北地域ロボット人材育成実行委員会事務局長 徳田 孝明

### 1 はじめに

日本は工業立国ですが近年は数学・理科・工学離れが起こり、また将来推計人口では秋田県北の市町村人口が2040年には現在の50～75%に減少する予測がなされ、地域の下支えをする人材の育成が困難な状況になっています。その様な中で秋田職業能力開発短期大学校（職能短大）ではETロボコン（企業や学生が参加する全国規模のロボットコンテスト）の取り組みをきっかけに、ロボットを活用したキャリア教育支援で効果を上げてきました。そして昨年度、第一中学校が秋田県中学校ロボットコンテストで優勝し、大館工業高等学校が秋田県高等学校ロボット競技大会で三連覇し、職能短大でもETロボコンで東北地区大会8位（2009年度優勝）と健闘し、大館ではロボットの話に花が咲きました。ロボット教育を普及・発展させるにはこの機運を逃せないと感じ、職能短大の田野倉校長が发起人となり、高橋教育長や小中高の校長先生方、地元企業の社長さん達と連携を取りながら、人材育成の組織を設立することになりました。



図1 ミニ競技の風景



図2 第1回ロボット競技会の参加者

### 2 ロボットとコンテストの組み合わせ

ETロボコンの取り組みが学生の技術力や人間力の向上になぜ効果的かを要因分析したところ、「ロボット」と「コンテスト」のコラボレーションによる相乗効果であることがわかりました。子供たちの興味が湧く「ロボット」と、夢や目標を引き出す「コンテスト・競技」（図1,2）の組み合わせは、子供たちの好奇心をくすぐり、ワクワク・ドキドキする体験を通じて、楽しみながら科学技術を学ぶような若年者のキャリア教育支援に大変効果があります。

### 3 実行委員会の設立と取り組み

#### (1) 実行委員会の設立

ロボット教育を普及・発展させるには小学生から大学生や企業人までを体系的にそしてシームレスに教育する必要があります。そのためには複数の教育機関や自治体などが相互に連携し、大会の運営費や全国大会の派遣費などの支援のために地元企業や団体の協力も必要になりますので、必然的に教育機関内ではなく外部の組織を作る必要があります。多くの方々のご協力により、表1のような実行委員で構成された「秋田県北地域ロボット人材育成実行委員会」を平

成 25 年 4 月 22 日に設立しました。

目的は、地域の子どもたちがロボットのプログラムづくりやコンテストを通じて、科学技術に興味を持ち、夢力・創造力・問題解決能力・コミュニケーション力などの人間力を併せて向上し、将来秋田県北地域のものづくり人材として育てることです。

### (2) 実行委員会の取り組み

今年度の取り組みとして、主に小学生を対象としたロボット教室と WRO Japan(国際科学技術コンテストにも認定されている小中高生を対象にしたロボット大会)の秋田県北地区大会の開催を中心に、表 2 のように実施しました。図 3 はロボット教室についてのアンケート結果の一部です。参加した子供たちは楽しく、そしてワクワクどきどきした体験をすることができました。

表 1 実行委員一覧

NO	役割	所属	役職
1	実行委員長	地元企業	企業経営者
2	協賛企業代表	地元企業	企業経営者
3	大館市教育委員会代表	大館市教育委員会	教育長
4	大館市代表	大館市役所	産業部長
5	高等学校代表	秋田県立大館工業高等学校	校長
6	中学校代表	大館市立第一中学校	校長
7	小学校代表	大館市立釈迦内小学校	校長
8	大館市発明工夫教育研究協議会代表	大館市発明工夫教育研究協議会	会長 (校長)
9	秋田職業能力開発短期大学校代表	秋田職業能力開発短期大学校	校長
10	事務局長	秋田職業能力開発短期大学校	教授
11	事務局次長	秋田職業能力開発短期大学校	能力開発部長

表 2 平成 25 年度の取り組み

取り組み項目	日程	実施内容
実行委員会	4/22, 11 月下旬	秋田県北地区大会要綱と実施内容を協議して設立、事業の結果報告
ロボット教育の広報	5 月中旬	校長会、教頭会、市内全小学校へ広報
ロボット教室	6/30,7/6,7/21	ロボットのプログラミング(移動、ラントレースなど)の習得
ロボット競技会	7/6,9/14	ショクタンカップで技術力や問題解決力の向上
秋田県北地区大会	7/27,8/24	WRO Japan 2013 秋田県北地区大会ベシク部門の運営・実施
WRO Japan	9/8	WRO Japan 2013 秋田県北地区大会で優秀な成績の場合出場
WRO 世界大会	11/15~17	WRO Japan イキスバト部門の上位 4 チームが会場して、インドネシアで開催

### 3 まとめ

多くの方々の協力により実行委員会を設立し、ロボット教室や秋田県北地区大会の実施、WRO Japan (全国大会) への派遣を行なうことができました。全国大会へ出場した小学生は自主的に職能短大へ特訓に来てプログラムづくりに励みました。全国大会では満足な結果を出せませんでした。が、次年度は中学生部門に挑戦しリベンジをしたいと語っていました。保護者へのアンケート結果でも「(抜粋) 頑張れば願いは叶うことを実感できたと思っています。一年を通して子供達が基礎から学べ、将来につながる勉強ができる環境が整うことを願っています。」「(抜粋) 小学校の教室ではなく、目新しい環境でのロボット教室は子供の好奇心をかきたて、また先生達のやさしく丁寧な指導で子供はゆっくりと安心して学ぶ事が出来たと思います。」と書かれていました。まさに実行委員会が目指している人材育成の一步が確実に踏み出されたと感じています。次年度以降は対象を中学生、高校生への拡大と世界大会へ出場できる人材を育成し、その技術力や経験を地元大館に返したいと考えています。将来、大館市がロボットの街として活性化して、諸問題が解決できることを願っています。

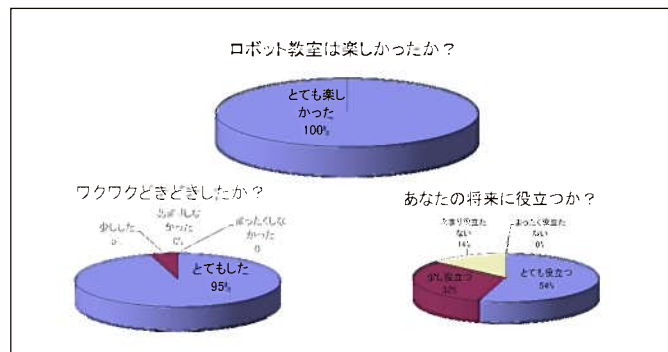


図 3 ロボット教室のアンケート結果



## 大館市の未来を拓く公立保育園の使命と役割

～満5歳すてっぷ相談，子どもハローワーク等の取組から～

大館市公立保育園長会 with 子ども課子育て支援係  
大館市立釈迦内保育園長 佐藤 栄吏子  
大館市子ども課長補佐 石川 恵美子

### 1 はじめに

大館市では、保育所保育指針改定や社会情勢等の様々な変化の可能性やニーズへの対応の為に、平成21年度より10年先の保育体制にも柔軟に対応できる市独自の新たなシステム（体制，組織，機能）の創造を目指してきた。これまで、人材の育成，組織力の強化を重点に、また、「公務員保育士」として市行政と協働しながら市全体を広い視野で捉え、子どもの育ちを長い目で見通した方向性を示す役割を模索する等、新たな保育・教育に対応する公立保育園の基礎体力作りを行ってきた。その中で、職員の意識改革が図られ、人的・物的環境の重要性を認識し、子どもの最善の利益を考慮する保育を第一に考えるようになった。また、それぞれの立場で、行政組織の一員としての自覚や責任感が芽生えてきた。

しかし、子どもの育ちという面では、家庭の養育力の低下，長時間保育に伴う子どもの情緒の不安定，心の育ちの未熟さ，家庭生活における経験不足もあり，気になる子は増加傾向にある。園内支援体制の構築を図り取組んできてはいるが，専門的な，連続性のある支援体制の充実や家庭の養育力の向上が課題である。

また，公立保育園には，人材育成の役割を担うよう機能を高めていくことや，市全体の保育・教育のリーダーとしての役割を自覚し，必要性を実績で示すことが求められている。

基幹保育園としての役割を担えるよう様々な取組みをしている中から，特別支援教育の体制作りとしての満5歳すてっぷ相談と，次世代育成支援としての子どもハローワークの取組を紹介したい。

### 2 研究内容

#### (1) 満5歳すてっぷ相談の活用

就学を見通し，集団への不適応や人との関わりの苦手な子の早期発見・早期対応，保護者には生活習慣作りについての啓蒙を図ることを目的に，基幹保育園の一つである有浦保育園を会場に，市内の満5歳を迎えた全ての児童と保護者対象に毎月実施している。担当者は，大館市立総合病院医師，公立保育園発達支援コーディネーター（各園の主任）・臨床心理士，保健師，教育委員会職員・教育専門監等35名程度である。



内容として，子どもは，個別検査や集団遊びなどを行い，保護者は，子育て学習会に参加する。また，希望者には，個別の相談を実施し，相談内容に応じて医師や保健師，臨床心理士，教育専門監等が担当し，子育て支援の一翼を担っている。各施設にはすてっぷ相談の結果を報告し，保育に活かしている。また，すてっぷ相談の経過児を教育専門監や教育委員会スクールカウンセラー，就学支援員，特別支援教育アドバイザー，また，平成24年度より，福祉課（現子ども課）に配属された臨床心理士・巡回支援専門員が巡回訪問し，経過観察・助言指導を行なっている。

また、就学時健診やすてっぷ相談の経過児を対象に、保護者の希望により、幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」が実施された。25年度は、申込が多く、9月から7会場において48名が通級している。今年度に入り、小学校を臨床心理士、就学支援員が訪問し、子どもの姿からすてっぷ相談やぐんぐんの取組みにおける成果や課題の洗い出しをしている。

## (2) 子どもハローワークの活用における小・中学生の保育体験

これまでも実習や職場体験の受け入れを快諾してきたが、自主的で継続的な活動、発展につながらなかった。公立保育園では、「子どもハローワーク」事業を積極的に活用し、継続的な活動へつなげ、次世代育成支援を図りたいと考えた。乳幼児に触れる体験により、



子どもの可愛らしさや命の大切さを実感できる機会となっている。保育に対して興味を持ち、リピーターも多い。園の子どもたちも小・中学生の来ることを待っていて、うれしさをストレートに表現する子どもたちの姿がまた大きな喜びや励みになっているようにも思われる。また、間もなく親となる中高生が、日常的に保育園に足を運び、乳幼児に触れる機会を持つことは将来的に虐待防止につながるものと思われる。また、親となり、育児不安等がある場合に、保育園は気軽に相談に足を向けられる場所でありたい。お手伝いをしてもらうだけでなく、受け入れ側として次世代育成に重きを置いた計画的な受け入れ体制作りが必要と考え、今年度、公立園長会で「子どもハローワーク受け入れマニュアル」を作成した。

## 3 成果と課題

### (1) 特別支援教育の体制作り

- 関係機関とのネットワークを広げ、協働・役割分担を明確にしたことにより、途切れないライフステージに応じた支援ができるようになった。
- 機能する、途切れない特別支援教育体制が、保護者にとってもより見える、分かる、安心できるものとなるよう工夫、周知していくことが求められる。

### (2) 次世代育成支援の取組

- 小・中学生にとっては、乳幼児の実態を知ることができ、相手の気持ちに思いを寄せて心を通わせていくことの心地よさや、自分が頼りにされ、必要とされているという実感を得る場となっている。体験を通して保育の役割や保育士の関わりを理解してもらうことで、次世代の親としての予備知識や心構えを知る機会となっている。地域に開かれた教育資源としての役割が担えているとの実感がある。
- 乳幼児の実態や保育の理解の機会となっているが、子育てをしている親の思いに気付く場作りをしていきたい。

## 4 おわりに

全国的に公立保育園の民営化が進む中、大館市は基幹保育園として4園を残すことにした。その意義を理解し、公務員保育士としての自覚を持ち、組織力を発揮できる園運営、時代が求める保育・教育にしなやかに対応できる保育士を目指し、努力をしていきたい。



## 体験の風をおこそう

わんパーク大館（県立大館少年自然の家）所長 畠 修

### 1 こんな悩みはありませんか？

「クラスがどうもまとまらない」「話し合い活動がうまくいかない」「学級のスタートに最適な活動はないの？」「自己肯定感をほぐくみたい」「もっと子ども同士が仲良くなってほしい」… これらの悩みを効果的に解決する一つの手立てとして、体験学習があります。

### 2 「かわいい子には体験を！」（独立行政法人 国立青少年教育振興機構HPより）

国立青少年教育振興機構では、子どもの頃の体験（自然体験、友だちとの遊び、地域活動、家族行事など）によって得られる資質・能力について、成人（20代～60代 5,000人）を対象に調査を実施し、あわせて、青少年（小学校4年生から高校生約19,000人）を対象にした意識調査の結果を発表しています。それによりますと…

#### (1) 子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります。

子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってからやる気や生きがいを感じ、さらには「年収が高い」「1ヶ月に読む本が多い」という傾向にあります。

しかも、住んでいる地域による自然体験の頻度に違いはないという結果から、地方に住んでいても周りの大人が体験活動を意識的に仕組んでやる必要があります。自然の家で登山を体験した県北部の小学生の第一声は「あ～、山の空気はやっぱりうまい」でした。

#### (2) 体験活動にはこんな効果が！

子どもの頃に多く体験を行ってきた保護者ほど、子どもの体験を多く行う傾向があります。したがって、これらの活動は、将来の社会につながるものと言えます。さらに体験活動は自己肯定感を高めたり、職業意識や自尊感情が育まれたりするという結果もあります。

### 3 わんパーク大館には楽しい体験メニューがいっぱい！

#### (1) 野外活動では

鳳凰山登山、、秋葉山ハイク、ナイトハイク、ウォークラリー、グリーンウォッチング、長木川遊び（カヌー体験、川流れ体験）、野鳥・植物・天体・水生生物等の観察  
キャンプファイヤー、野外炊飯、火おこし体験、テント泊、ドラム缶風呂 ほか

#### (2) 屋内活動では

所内ハイク「大ちゃんを探せ」、スポーツライミング、フォークダンス、パラシュット、大型ジグソーパズル、創作活動、オカリナの絵付けと演奏体験 ほか

### 4 PAで学級集団づくりや人間関係づくりを

この調査では、おしくらまんじゅうのように、子ども同士が触れ合ったり、ルールを話し合ったりしながら友だち関係づくりをするという「遊び」の体験が減っているという現状も

報告されています。これらを解決する手立てとして、わんパーク大館ではPA（プロジェクト・アドベンチャー）を提案しています。

(1) PA（プロジェクト・アドベンチャー）とは「心の冒険」

これは、冒険を基礎にして、わくわくドキドキを引き出しながら、個人の成長とグループ内の人間関係づくりを支援する、現代心理学を活用した体験学習プログラムです。

(2) PAはどうすすめるの？

① 体験器具（エレメント）を使います。

たとえば、ジャイアントシーソーでは、全員がうまく乗れるにはどうしたらいいか自分たちで相談し、その作戦をもとに協力して挑戦します。

② 「ビーイング」という方法で思いを共有します。

責めない、ばかにしない、認め合うなど、お互いの人格を尊重し、お互いの努力を評価しあい、お互いの信頼する心を育みます。さらに、記入した用紙は、その後の学級経営や部活動経営にも使えます。

(3) PAの効果は？

集団の人間関係づくりに効果的ですから、学級づくりや部活動のチームワークづくりにも大変有効な活動です。また、不登校等不適応行動の未然防止の効果も期待できます。

さらに、PAは自然の家職員が進めますから、引率の教員や監督・コーチ・保護者の方々は子どもたちの様子をじっくり観察し、子ども理解をさらに深めることができます。

## 5 わんパーク大館のこれから

大館少年自然の家は、体験活動やキャリア教育の実践の場、家庭教育や地域活動の場、学校や就学前教育のセカンドスクール、健康づくりや憩いの場、いわば「山の学校 みんなの学校」としての役割を果たそうと活動してまいりました。

そして、次年度以降、向かう方向としては次の2点を重点としています。

(1) 多泊型体験学習の推進

県が行った「わんぱく・3ぱく・体験活動プロジェクト事業」の調査・分析によりますと、1泊より2泊、2泊より3泊がいろいろな面で効果的であるという調査結果から、主催事業「3泊4日宿泊体験モデル事業」（仮称）を行い、多泊型体験学習を推進します。

(2) 防災教育の推進

地域防災の拠点として、学校や地域における防災意識の啓発に積極的にお手伝いします。具体的には、避難所体験などを含む防災キャンプの実施を計画しています。

## 6 おわりに

現在、子どもたちの体験が減少している状況の中、子どもたちの健やかな成長を願って、国立青少年教育振興機構では、「体験の風をおこそう」運動を推進しています。

さらに、大館市教育委員会が推進してる「ふるさとキャリア教育」を充実させ、ふるさとを愛し、ふるさとを支えていこうという志をもった子どもたちを育成するために、体験学習が持つ役割は非常に重要であると感じています。

将来にわたって「生きる力」を育むために、

子どもたちに「体験」させるのはいつ？ 今でしょ！



## 閉校、統合と子どもたち

大館市立東館小学校 教頭 乳井 昭久

### 1 はじめに

昨年度、大葛小は、約10km離れた児童数約6倍の東館小と統合した。この時、大葛小からの子どもたちの学習環境は一変した。しかし、幸いなことに大葛小から東館小に通学することになった子どもたちの中に、深刻な不登校状態に陥った子どもはいない。大葛小の子どもたちが、学習環境の激変を乗り越えることができた要因は、何だったのだろうか。

### 2 閉校年度（平成23年度）の大葛小学校、東館小学校

#### (1) 児童数と教職員数の比較

大葛小 児童数：教職員数＝ 21：10 ⇒ 2：1 教職員1人あたり児童2名  
東館小 児童数：教職員数＝ 116：15 ⇒ 8：1 教職員1人あたり児童8名

#### (2) 考察等

- ・大葛小の子どもたちは、東館小より数字の上では4倍も直接教職員と関わっている。
- ・両校ともに学級編制が無いため、学級は固定的人間関係になりがちである。
- ・閉校、統合は子どもたちにとって大きなショック（心理的負担）と考えられる。

#### (3) 大葛小の良い思い出を通して子どもたちの心を豊かに

- ・閉校記念の標柱を頂上に設置した竜ヶ森登山（6月）
- ・あきた白神体験センターに宿泊し体験学習に取り組んだ全校森林環境教室（7月）
- ・おおくぞ子ども盛り上げ隊を結成し県PTAの補助金を活用した親子キャンプ（8月）
- ・古紙や空き瓶の回収で得た代金を活用して実施した盛岡市への全校バス遠足（10月）
- ・比内芸術文化祭で女子児童全員で発表した大葛の郷土芸能「からめ節」（11月）
- ・県統計功労で学校表彰，県「家族の絆」エピソードコンクールで最優秀賞（11月）
- ・東館小を訪問し交流学习（東館小の学級に入り大葛小教師からも授業を受ける）
- ・閉校記念誌の作成（閉校年度在籍児童について約10ページ確保）
- ・卒業・修了・閉校式の期日設定の工夫（3/19卒業式，21修了式，25閉校式）

### 3 統合1年目（平成24年度）の東館小学校

☆環境が激変する大葛からの子どもたちを不登校から守る。

- ・あいさつ運動「おはよう」（コミュニケーションの糸口，声をかけ合う習慣形成）
- ・日々の情報交換，職員会議での情報交換等
- ・大葛小時代の特色ある体験学習等（椎茸菌植菌・収穫，大葛小キャンプ場で親子レク）
- ・運動会（開・閉会式で大葛の子どもたちを前列に，大葛地区の保護者テントを中央に）
- ・未来科で著名人を招聘（東館小で学ぶ良さの実感，著名人から励ましの言葉）  
→ 長崎宏子，田部井淳子，豪風関，お三方ともに「あきらめないことが大切！」
- ・学習発表会で郷土芸能発表（四つの郷土芸能，伝統文化の相互理解，他地区の尊重）

・東小ドリームロード（校門から玄関まで花壇を整備，努力が花開くよう願いを込め）

#### 4 統合2年目（平成25年度）の東館小学校

☆大葛からの子どもたちを統合2年目も不登校から守る。

- ・あいさつ運動「おはよう」そして「こんにちは」（糸口の強化，場の確保）
- ・日々の情報交換，職員会議での情報交換等
- ・大葛小時代の特色ある体験学習等のさらなる実施（大葛小時代の学校田で田植え・稲刈り，大葛で地区探検・環境学習，教育長高橋先生による砂金教室）  
→ 大葛に誇りを持つ，大葛のよさを知る，大葛から通学する友達を大切に思う
- ・学校報を保護者配布から学区約1000世帯全戸配布へ（地域の学校理解を深める）
- ・未来科や学習発表会での郷土芸能発表の継続，東小ドリームロードの充実

#### 5 大葛小と東館小の比較より

- ① 大葛小は対等な立場の友達がほとんどいないが，東館小はたくさんいる。
- ② 大葛小は教職員と，東館小は同級生と直接関わる割合が高い。
- ③ 大葛小は地域と大変濃厚に関わるが，東館小は大葛小ほどではない。
- ④ 大葛小は異年齢集団の中で，東館小は同年齢集団の中で過ごす割合が高い。「対等な立場の様々な同級生との関わりが極めて少ない状態」で大葛小の子どもたちは過ごす。  
→ よりよい成長，バランスのよい成長を遂げる上で「大きな課題！」  
→ 児童心理学者（東京学芸大学名誉教授）深谷和子先生 「先輩，後輩の関わりは比較的やさしい（上下関係）。同級生同士の関わりは難しい（対等な立場）。」
- ⑤ 大葛小の部活動は全員参加。東館小は原則自由。
- ⑥ 大葛小の子どもたちはたてわり活動に慣れているが，班のメンバーは結果的に固定的。
- ⑦ 大葛小の子どもたちは，大人と接触して学校生活を過ごす割合が非常に高い。

#### 6 統合後の欠席状況（※大葛小からの子どもたち）

1年目，2年目ともに，深刻な不登校状態に陥った子どもはいない。

#### 7 児童アンケート調査より（※平成25年12月実施，調査対象は大葛小からの児童10名）

- ① 大葛小が閉校すると知った時 → すべての子どもが「かなしい，さみしい，いやだ」
- ② 統合して東館小に初めて登校した時 → 90%が「これからが心配」
- ③ 東館小に「なじめたな，親しみを持てたな」と感じたのは → 70%が「4月」，10%が「9月」，10%が「11月」，10%が「1月」
- ④ すべての子どもが「1年以内になじめた，親しみを持てた」を選択。その要因は，教職員や周りの子どもたちの配慮，そして本人の努力。
- ⑤ たくさんの子どもたちのいる学級 → 40%が「楽しい」，60%が「落ち着かない，不安になる」。（高学年女子に多い）
- ⑥ 東館小の良いところ → 「たくさんの友達や同級生がいる」，「未来科などの学習等」

#### 8 終わりに

閉校校が極めて小規模の場合，子どもたちは対等な立場の様々な同級生との関わりが極端に少ない状態で学校生活を送る。だから，遙かに規模の大きい統合先の学級では，円滑な人間関係等を築くのに日数がかかる場合がある。この時，本人の努力のほかに大切となるのは友達からの親切，教師からのあたたかい言葉かけや指導助言等である。これらが原動力となり，大葛小からの子どもたちは統合先の東館小で日々がんばることができている。





### 3 ユニバーサルデザインと学びの場

#### (1) ユニバーサルデザインの教育支援とは？

- ① 特別な支援を必要とする子どもには、「なくては困るもの」
- ② 他の子どもにとっても、「あれば助かるもの」

#### (2) なぜ、ユニバーサルデザイン？

- ① 学校生活のほとんどが授業
- ② 学校生活のほとんどが学級集団
- ③ 個別の指導の限界

#### (3) ユニバーサルデザインって？

- ① 従来に行われてきた教育支援（特別支援教育的なアプローチも含む）
- ② ちょっと新たな教育的視点

#### (4) 新たな教育的視点のヒントはどこに？

- ① 学力の上がりづらい子どもに
- ② 落ち着かず、話の聞けない子どもに
- ③ できないことを認めるところに
- ④ 一つの考え方に偏らない、固執しないところに

#### (5) ちょっと新たな教育的視点

- ① 分からない生徒は、どんなに分かりやすく説明しても（1人では）分からない。  
※協同学習のすすめ→友達、教材、自分、それぞれとの対話（言語活動）
- ② 大きな声の説明は、理解につながっていない。  
※学びは言葉を探しにくることから始まる
- ③ できないことを怒っても改善されない。※育っていないのだから
- ④ 怒られながらの指導は入らない。
- ⑤ 動機付けの興奮は、失敗のもとになる。
- ⑥ 無視することも支援になる。（ほめるチャンスを待つ）
- ⑦ 全員の生徒が1回の話で分かることはない。  
※友達、先生に聞いても大丈夫
- ⑧ できないところより、できるところを刺激する。
- ⑨ 視覚と短い話で伝えたい。 などなど

### 4 おわりに ※安心して生活し、学べる学級、学校作りへの構え

- (1) 一番困っているのは本人 … 大人が先に困っているのは、本人を支援できない。
- (2) 行動には必ず、理由や意味が … 行動だけでは、本人を分かることはできない。
- (3) 認めてほめる … 認められてこそ、ほめられてこそ、自ら動機を高められる。
- (4) まず学級・学校、そして、それぞれの場所 … 学校の中で、合理的配慮を探る。
- (5) 時間や物事の流れの力も … 人の力だけでは育たない。
- (6) 半分の真実 … 生徒を支援する時「～しなければならない」「～でなければならない」「～である」は、必ずしもその時すべてが正解ではない。隣だったり、裏側だったり、もう一つの物語があるかもしれない。



## 通常学級における特別に支援を必要とする 児童への支援の在り方

大館市立扇田小学校 教諭 間嶋 祐樹

### 1 特別支援教育を進める意味

- (1) どのクラスにも発達障害の子がいる。今までの指導が通用せずに苦勞することが多い。
- (2) 発達障害の子への対応がうまくいかずその結果、学校全体の大きな課題となる。
- (3) 不登校やニート問題などに絡んでいるのも発達障害である。日本の社会の喫緊の課題でもある。

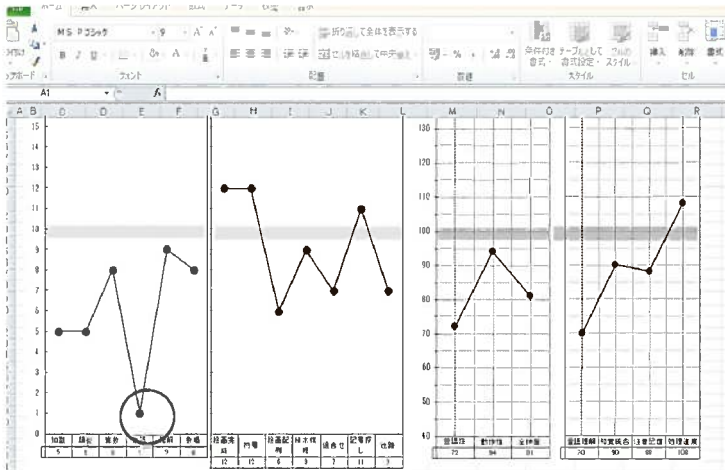
### 2 支援の対象

児童だけを支援しては、片手落ちである。支援の対象は

児童・教師・保護者である。

### 3 発達障害とは何か

発達の凸凹 + 不適応 = 発達障害



次のような子がいる。  
「ばか、うるせえ、しね。」等と暴言を吐く乱暴な子ども。  
検査をすると、「単語」が著しく落ちている。言葉が身についていない。したがって、知っている数少ない言葉で悪口を言う。言葉が少ないからすぐに手が出てしまう。  
これを叱責しても意味はない。むしろ自己肯定感が下がり、状況は悪化する。  
この子の発達のアンバランスを知り、叱責が多くなつての二次障害（不適応）へ進むというパターンを防ぐのが大事。

### 4 保護者への支援

大変な子どもと、その保護者をセットでとらえる。

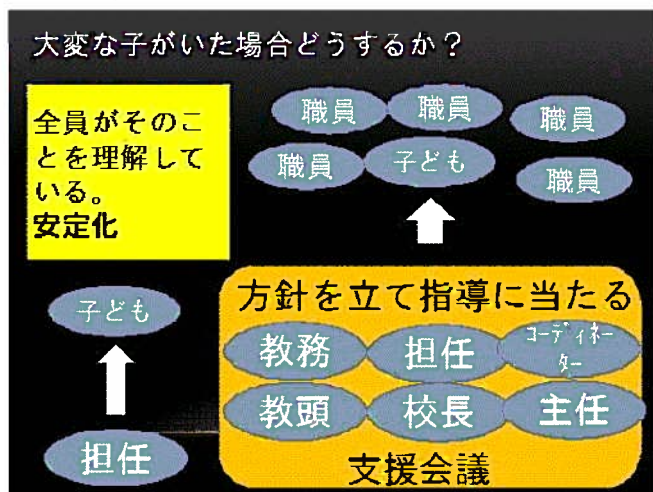
子どもの状態が悪いときは、家庭でも問題を抱えている場合が多い。保護者が困っている

時がある。保護者から話を聞くだけで半分以上の前進。

面談のポイント

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1. 必ずお茶を出せ。(雰囲気柔らかく) | 2. 会の規定をせよ。  |
| 3. 困り感を前面に出せ。        | 4. 共感, 傾聴せよ。 |
| 5. 方針を一つ提案せよ。        |              |

## 5 教師への支援



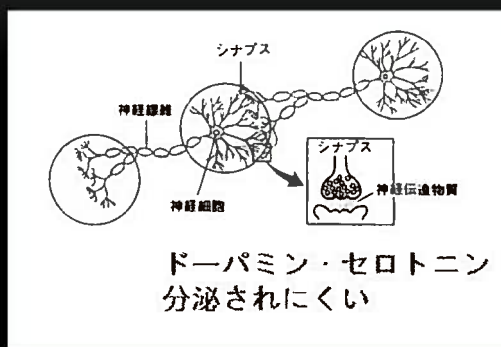
大変な子がいた場合、組織で対応する。

- (1) 校内支援会議を開き、子どもへの対応方針を決める。
- (2) すべての教職員にその対応方針を周知する。職員全員がその子のことを理解し、対応についても知っている状態にする。
- (3) 担任が一人に対応するとか、職員の中でその子のことを知らないという状態をなくす。

### セロトニンファイブ

- ① 見つめる
- ② 微笑む
- ③ 話しかける
- ④ 触る (触れる)
- ⑤ ほめる

### 発達障害の子の脳構造



シナプスには隙間があり、神経伝達物質のセロトニン・ドーパミンが分泌され情報を伝達する役割を果たす。発達障害の子の脳は、情報を伝達するセロトニン・ドーパミンが分泌されにくいということが分かっている。したがって、それらが分泌されやすいような対応が必要。

## 6 保育園・幼稚園との連携

### (1) 1学期・2学期

幼稚園・保育園の先生が小学校に授業を見に来る。  
幼稚園の給食試食会と幼稚園児への授業。

### (2) 夏休み・冬休み

コーディネーターが保育園に行き、授業をする。  
その後、保育園の先生方に子どもへの対応の話をする。

### (3) 3学期

保育園・幼稚園児が体験入学に来る。

年間を通じて保育園・幼稚園の公開研参加や行事等の相互参観



【扇田保育園での授業風景】



## 自分の考えを生き生きと表現できる子どもの育成 ～算数科の学び合いを支える取り組み～

大館市立城南小学校 教諭 田村 美穂子

### 1 はじめに

本校は、算数科の学び合いを通して「確かな学力を身に付け、豊かに表現する子どもの育成」を目指して3年目である。学び合いの充実を重視するとき、教科に対する教材研究が重要であることはもちろんだが、学級担任をしていて、最も育てる必要があったのが、子どもの授業に対する姿勢と子ども同士の間人間関係である。今年度低学年を担当し、「学び合い」ができる高学年を目指して学級経営を行ってきた。そこで有効であった城南小学校の取り組みを紹介したい。

### 2 城南小学校の教育目標「どの子どもも喜んで活動する学校」実現のために

- (1) マニフェスト  
城南っ子3か条  
2013
- 徳 キラッとさんになろう（生活指導部）
  - 知 学ぶ力を身に付けよう（学習指導部）
  - 体 元気に生活できる体をつくろう（健康指導部）

#### (2) 子どもの変容に特に有効であった取り組み

- ①キラッとさんで認め合い…縦割り清掃でのお掃除キラッとさんは、掃除の反省会の中で紹介され、更に今月のキラッとさんとして班長が書いた理由とともに学級担任に知らせられた。帰りの会で紹介されたキラッとさんとともに学年便りでも紹介。
- ②JDS委員会の取り組み…集会で学級のめあて・学級自慢の発表をしたことで、伝える楽しさを味わうとともに、学級のまとまりがよくなり、自己肯定感も高められた。
- ③生活委員会の取り組み…昼の放送であいさつ名人の紹介。5回紹介で殿堂入り。

### 3 算数科の取り組み

#### (1) 算数でめざす子ども像

- ①数量や図形に関する基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける子ども
- ②解決への見通しをもって最後まで取り組む子ども
- ③自分の考えを数学的に表現し、伝え合おうとする子ども
- ④学んだことを生活や学習に活用しようとする子ども

#### (2) 学び合いの姿（例 高学年）

自分の考えや友達のことを分かりやすく説明する。  
多様な考えのよさを見付け、自分の考えを深める。

伝え方	聞き方	問い返し方
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを言葉・算数用語・数・式・図を活用したり、例示したりして説明する。</li> <li>・友達の考えを理解し、代わりに説明する。</li> <li>・多様な考えの中からよりよい考えを見付け、根拠を持って説明している。</li> <li>・相手の反応を確かめながら、分かりやすい方法で伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と相手の考えを比較しながら聞き、相手の考えのよさを取り入れ、自分の考えを深める。</li> <li>・多様な考えを関連付けて友達の考えを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え方の分からないことを質問している。</li> <li>・友達の考えを補足説明して確認する。</li> </ul> <p>「つまり、〇〇さんの考えは、～ということですね。」</p>

### (3) 算数科の授業展開例

段階	分	学習活動	教師の支援
つかむ	5	1 学習問題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が問題場面をイメージできるように、設定・数字・具体物などを工夫する。分かっていること、求めることに線を引かせる。</li> <li>・既習事項と違うところから課題につなげる、</li> <li>・既習事項の何を使うと解けそうかを考えさせる。</li> <li>・自力解決の時間に自分なりの考えをもてるようにする。途中まででもいいことにして時間をかけすぎないようにする。</li> <li>・本時のねらいにつながる考えを選んで発表させる。</li> <li>・発表された考えについて質問したり付け足したり反論したりして学び合う。</li> <li>・比較検討の場面では、「なぜそうなるのか」を問いかけたり、「速く」「簡単に」「正確に」「いつでも」「便利」などを活用して絞り込み深めていく。</li> <li>・必要に応じて類似問題を解き、理解を深める。</li> <li>・まとめは本時の課題に対応するようにし、簡潔に、児童の言葉や授業でのキーワードを入れてノートに書かせる。</li> </ul>
見通す 調べる	3 7	2 本時の課題をつかむ。 3 解決の見通しをもつ。 4 求め方を考える。	
深める	20 (15)	5 考えを検討し合う。	
まとめる	5	6 学習のまとめをする。	
確かめる	5 (10)	7 確認問題を解く。 8 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認問題はシンプルにして、全員ができることを想定した問題にする。</li> <li>・ねらいを達成できたか、自分の考えを表現できたか、意欲的に取り組めたか、など自分がどのようにして変容したかを簡単にノートに書く。</li> </ul>

#### 4 おわりに

4月に、研究主任として「城南型算数」を全職員で共通理解するための「研修の手引き」を作成し始めた。そして、研究授業がスタート。6年生の授業を参観し、目指す姿は分かったものの、目の前の子どもたちをどう育てたらいいのか四苦八苦の学級経営。城南小学校には、そんな子どもたちが育っていくための様々な取り組みがあった。生活指導部を始め、全校一斉道徳、14人のボランティアによる読み聞かせ、充実した図書館経営、縦割り活動などを通して、子どもたちは育ってきた。学級経営としては、一人一人が輝ける場面を見通した指導を心がけた。絵や作文コンクールで脚光を浴びる子。授業の難しい課題で活躍する子。集会活動で自分をのびのびと表現できる子。等、一人一人に活躍する場を与え、自己肯定感をもたせるようにした。

「学び合い」を成立させるための子ども同士の好ましい人間関係づくりをめざして、取り組みは現在進行形である。





## 単元を貫く言語活動の実践 ～読むことの指導について～

大館市立桂城小学校 教諭 中井 みどり  
教諭 山本 慎子  
教諭 金 圭子

### 1 はじめに

「単元を貫く言語活動」を位置付けた指導は、従来のような単元構成では行うことができない。新しい学力観に基づく、新しい指導法には、新しい単元が必要である。本校では、現行指導要領の趣旨に基づいて、次のように単元づくりを行い、確かな読みの力の定着を目指した。

### 2 「単元を貫く言語活動」を位置付けた指導の実践

#### (1) 重点指導内容の設定

はじめに、年間指導計画や児童の実態などから、単元の重点指導内容を決定する。これが決まらなないと、単元を貫く言語活動も適切に設定することができない。

#### (2) 重点指導内容に最適な言語活動の設定

次に、言語活動の特性と教材の特性などを考え合わせて、児童が自発的に学習できるような言語活動を設定する。

#### (3) 指導過程づくり

##### ① 第一次の指導

- ◇学習意欲をもたせる。
- ◇必要感のある言語活動（学習課題）を設定し、学習の見通しをもたせる。

##### 【教師の支援・配慮事項】

- ・教師による関連図書の読み聞かせやペープサート劇の演示
- ・教師自作のパンフレット、新聞、感想文、意見文等の提示など

※ゴールとなる言語活動を演示・提示する。

##### ② 第二次の指導

- ◇教科書教材を使って、言語活動を指導する。第三次において、自力で言語活動ができるような指導（学び方）、支援を行う
- ◇どの時間も一貫して、単元を貫く言語活動に関わる学習を行う。学習内容を精選し、無目的で詳細な場面読みで終わらないようにする。

#### <実践例 1>

- 【学年】 2年生
- 【重点指導内容】 読むこと(ウ)
- 【言語活動】 ペープサート劇
- 【主教材】 「スイミー」
- 【並行読書】 レオ＝レオニの作品

#### <実践例 2>

- 【学年】 6年生
- 【重点指導内容】 読むこと(エ)
- 【言語活動】 帯やポスターで本を紹介し合う
- 【主教材】 「やまなし」  
「イーハトーヴの夢」
- 【並行読書】 宮沢賢治の作品

【教師の支援・配慮事項】

- ①学び方のマニュアルの用意
  - ・要点、要旨のまとめ方 ・あらすじのまとめ方 ・音読劇の進め方
  - ・ペープサート劇の進め方 ・感想文の書き方 ・報告文の書き方など
- ②参考作品等の展示・掲示
  - ・教師作成の見本 ・児童作品など

③第三次の指導

◇児童が自分の好きな場面や読みたい文章を選び、第二次の学習を活かして自力で言語活動を行えるようにする。(活用を図る学習)

【教師の支援・配慮事項】

- ①児童同士での学び合いの工夫
  - ・個の学習とペア・グループでの学習場面を意図的に設定する。
- ②既習学習（学び方のマニュアルを含む）の明示
  - ※児童が困ったときに、フィードバックできるようにする。
- ③学習の進捗状況と個別のサポート

<実践例 3>

せんそうのころのお話を読んで、感想を発表し合おう	
言語活動	物語を読んで、感想を発表する（3年生）
指導事項	◎感想を発表し合うという目的をもって、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりすることができる。 <読むことエ> ○戦争を背景にした物語を読んで考えたことを発表し合い、感じ方に違いのあることに気付くことができる。 <読むことオ>

第二次(5時間) 「ちいちゃんのかげおくり」で学ぶ

学習活動	指導のポイント
①「ちいちゃんのかげおくり」の、戦争に関する言葉の意味や新出語句の意味を調べながら読む。	
②人物の様子や周囲の状況の変化に着目して読み、粗筋をまとめる。	・はじめ・中・終わりの様子を大きくとらえ、まとめさせる。
③感想文例を見て、感想をまとめるポイントを確認し、感想を書く。	・付けたい力（引用・要約等）に関連した感想例を用意し、児童が自分で気付けるようにする。
④感想を発表し合い、交流する。	・それぞれの感想のよいところを教師からも紹介し、第三次に生かす。

第一次(1時間)

学習活動	指導のポイント
①戦争について知っていることを発表し合う。	
②「凧になったお母さん」の読み聞かせを聞いて、感想を話し合う。	・戦争時代を補足しながら教師が読み聞かせをし、戦争童話に関心をもてるようにする。
③単元のめあてをもつ。 「戦争のころのお話を読んで、感想を発表し合おう」	・戦争を背景とした童話を用意し、ブックリストを作っておく。
④感想発表会に必要な学習の計画を立てる。 ・並行読書をする。	

第三次(5時間) 自分が選んだ戦争童話で学ぶ

学習活動	指導のポイント
①難しい言葉の意味を調べながら自分が感想発表をするお話を読む。	・同じ戦争童話に興味をもった児童同士で3人グループを作り、交流しながら活動させる。
②人物の様子や周囲の状況の変化に着目して読み、粗筋をまとめる。	・疑問点や心に残った場面、文などを付箋に書いたり、話し合ったりしながら読ませる。
③引用や要約を取り入れながら、自分が選んだ本について感想をまとめる。	・第二次の学習の足跡を明示しておき、「ちいちゃんのかげおくり」での学習を活かして感想をまとめさせる。
④感想を発表し合い、交流する。	

3 終わりに

新しい国語科の指導では、教科書教材を読む時間は従来よりも大変少なくなる。表現の細部に触れることができなくなり教師は不安になるが、単元を通して、児童は、たくさんの図書教材

（良書）に触れ、自らねらいを達成していく姿を見ることができる。最適な言語活動の設定や一単位時間の展開の仕方など、課題もあるが、今後も研究・実践に努めていきたい。





# ワークショップ型授業を取り入れたふるさと学習

大館市立東館小学校 教諭 田村 秀人

## 1 はじめに

ソーシャルスキル教育や構成的グループエンカウンターの手法を授業の中に生かし、子どもたちが関わり合いながら学ぶ学習法としてとしてワークショップ型授業がある。このワークショップ型授業をふるさと学習の中に取り入れた実践事例について紹介したい。

## 2 ワークショップ型授業とは

○自由感のある「活動」を通して学ぶことで、関心・意欲・態度を基礎とした主体的な学びの力を育てる。上條晴夫編著(2005)「ワークショップ型授業で社会科が変わる」図書文化より

(1) 自由感のある「活動」とは…授業の中に、以下のような要素を取り入れること

- ①遊び・ゲーム的要素…ゲーム・クイズ・遊びなど
- ②表現・制作的な要素…作文・ロールプレイ・スピーチなど
- ③対話・話し合い的要素…ディベート・ランキングなど

例：物語を読み感想を書く。その後で、時間は10分間、必ず男女2名ずつ以上と、場所は教室内などときまりを決めて自由に移動させ1対1で紹介し合う。(国語の場合)

(2) 「ワークショップ型授業」の基本モデル

- ①説明：活動の目的、手順、約束、時間、場所を示す。(導入)
- ②活動：学習者が実際に活動をする。(展開)
- ③振り返り：体験的な学びを言葉にすること。(終末)



(紹介し合う子どもたち)

## 3 ふるさと学習①「4年総合」私たちふるさと比内探検隊

(1) 学習内容を決めるにあたって

- ①児童の実態…自分たちの住んでいる地域についてほとんど知らない。
- ②東館小学校の事情…三岳小・大葛小との統合、両地区の地域の教育力の積極的な活用  
※キーワード：「打って出るふるさと学習」積極的に地域に出向き、そこで学習する。

(2) 学習の流れ □：ワークショップ型授業を展開したところ

①自分の住む地域のすてきなところ

お互いの地区のすてきなところの紹介し合い□

②東館地区探検

③三岳地区探検

④中間まとめ

大人になったら子どもに伝えたい東館地区ランキング□

⑤大葛地区探検

⑥まとめ(学習発表会での発表)

みんなが選んだランキングは、ぼくが気付かなかったことを書いていました。ぼくは、〇〇さんのなるほどと思いました。とんぶりのことや、五日市神社のことなどぼくが書いていないことを書いていて、それを書けばよかったなと思いました。

8人の友達と紹介し合いました。一番いいと思った人は〇〇さんです。理由は、自分の子どもに歴史に興味をもって欲しいと言っていたからです。

わたしは、〇〇さんのランキングで五日市の犬が産んだ子どもがロシアの大統領に選られたことを聞いてすごいなあとと思いました。ニュースでは見ていたけど、五日市の犬だとはじめて知りました。

子どもに伝えたいランキング	選んだ理由
第1位 523年ごろに建てられた 大日堂	大日堂は523年ごろに建てられました。大日堂の柱は牛が運んだ木で作られています。古いのにとてもいかりしています。
第2位 昔の物が、 たくさんある 魚泳館	魚泳館には、昔のものがたくさんある。ほら、ほら、昔のものがたくさんある。ほら、ほら、昔のものがたくさんある。
第3位 中野城を 作った大館を 作ったあじい	中野城は、三岳にある中野城を、作った大館を、作ったあじい、すごいことなりました。

子どもに伝えたいランキングを紹介し合った感想

ある児童のランキング

### (3) 各地区探検の様子と児童の心に残ったこと、学習のまとめ

**東館地区探検**

独鈷大日神社神主の神成幸忠さん

- ・独鈷地区ができたのは2500年以上前の縄文時代。出土した土器から分かる。
- ・独鈷城は永正15年(1518 戦国時代)に浅利氏によって建てられた。浅利氏は山梨県から来た。
- ・大日堂は、523年ころできた。できた当時の建物は今の3倍の広さがあった。今の大日堂は1672年に建てられた。
- ・大日堂を作るとき、牛が木を運ぶ動力として大活躍した。そのため、たくさんの牛の絵を奉納している。

**三岳地区探検**

全應寺  
中野城跡  
三嶽山神社  
八面沢貯水池  
五日市神社  
農村公園

中野在住の阿部清悦さん

- ・三岳という名前の由来は、地域のシンボルである赤沢、引立沢、大丹波という三つの山から。
- ・三岳地区には八面沢貯水池というダムがあること。
- ・中野七夕は中野太鼓の音で、虫を追いはらうために始めた。お盆の13日に行っている。
- ・中野城は、浅利氏の家臣がつくったこと。
- ・泣きつ面山の伝説。

**大葛地区探検①**

大葛小跡  
映画館跡  
大葛稲荷神社  
金山墓地  
金山ふるさと館

大葛在住の島田恭明さん、佐藤弘先生、金山ふるさと館館長の山口一光さん

- ・大葛という名前の由来は、まわり「大きな葛の葉」がたくさんあったことから。
- ・大葛小学校には、児童が580名もいたとき(昭和21年)があること。大葛には、映画館があったこと。
- ・大葛小学校の屋上にある天体望遠鏡は、県内で2番目の大きさであること。秋に星がよく見えること。
- ・大葛金山では、金だけでなく銀、銅、水晶など、いろいろな鉱石がとれたこと。
- ・大葛金山の金は、奈良の大仏(749)や京都の金閣寺(1397)を作る際に献上されたという言い伝えがあること。

**大葛地区探検② 砂金採り体験学習**

高橋教育長から  
大葛に金ができただけ理由、金の性質を学ぶ

- ・2500万年前の大葛は、海の底だったこと。金は火山の力でできたこと。
- ・高橋先生からいただいた砂での練習では見付けられなかったが、自分でほった砂や石では見付けられなかった。でも、よい体験ができた。
- ・金は見付けられなかったけど、黄鉄鉱や水晶を見つけた。やはり、ここは鉱山があったところだと思った。
- ・金は1g5000円とても高いこと。実験で水銀を持った時とても重たかったが、金はそれよりも重かった。
- ・金は鉄とちがって、100年以上川の底に沈んでいてもさびないこと。

**学習のまとめ 学習発表会での紹介**

## 4 ふるさと学習②「4年社会 山ろくに広がる用水」ー郷土の先人を学ぼうー

(1) 学習の流れ ○きょう土を拓く「山ろくに広がる用水」 17時間の内4時間で実施

- ①大館市のおもな先人(10名)の業績についての紹介 2時間
- ②心に残った先人ランキング(3位まで)の決定と紹介 1時間
- ③秋田の先人(石川理紀之助)についての学習 1時間

※地域に県種苗交換会で農林水産大臣賞を受賞した方がいる。その方の紹介を導入した。理紀之助のすばらしい業績を紹介したかった。郷土の先人とも関わりがある。

(2) 紹介した先人、参考にした資料、児童の感想

**1 大館市のおもな先人(10名)の業績についての紹介 2時間**

小畑勇次郎 栗原吉右衛門 日菜弁吉 岩澤太治兵衛 島湯石一  
荒谷桂吉 小松多治右衛門 野島多一郎 田中輝治 明石文治

**参考にした資料**

○小学4年社会科副読本「わたしたちの大館市」  
○大館市ホームページ  
生涯学習課・郷土博物館「大館の偉大な先人」  
○「大館の人・事典」大館市の先人を顕彰する会編集

・ぼくは、戊申戦争で村が焼かれそうになったのを救った小松多治右衛門さんを選んだけど、ききんから人を助けるためにがんばった岩澤太治兵衛さんを選んだ○○さんの話を聞いてなるほどと思った。

・大館には、みんなのためにがんばったえらい人がいっぱいいた。自分たちの地区にもいてうれしかった。

・先人には、みんなのために自分のお金を使って活躍した人がたくさんいることがわかった。わたしも、少しでも近づきたいと思った。

・石川理紀之助さんの勉強をして、一緒にがんばった野呂多一郎さんをランキングに入れればよかったと思った。

## 5 実践を振り返って

- (1) 授業の中にワークショップ型の活動を取り入れることにより、学習意欲が高まり、積極的に参加するようになる。自分の考えを表現する場があり、それを受け入れてもらえる場があるからである。また、相互交流型の学びで、学級の人間関係づくりにも有効である。
- (2) 児童は地域についてよく知らないが、地域について知りたい・誇りをもちたいという気持ちをもっている。一方、地域には豊かな文化・自然が残っており、地域の方は伝えたいと願っている(しかし、残念ながら伝えられる人材が少なくなっている)。ふるさと教育には、後世の人々に各地域に豊かな自然・文化があったことを伝える使命がある。



## 社会科における地域素材の教材化

大館市立城西小学校 教諭 佐藤 健

### 1 はじめに

社会科の学習や総合的な学習の時間を進める上で地域素材はよく取り入れられている。また、子どもたちの学習に有効なのではと思われる地域素材が大館市にはたくさんある。

しかし、最も重視すべきは小学校学習指導要領解説に記載されている目標である。従って、その地域素材をどのように扱えば、学習の目標を達成することができるのか、ということに関してはしっかりと吟味されなければならない。

そこで本校では、その目標を達成するために、4年生の単元「きょう土をひらく」において、学区内を流れる米代川に架かる「田中橋」と、明治時代に田中橋を作った根下戸地区の先人「田中藤治氏」を地域素材として考え、学習活動を行った。

### 2 単元の指導計画（10時間扱い）

単元名 きょう土をひらく ～田中橋のひみつをさぐる～

#### (1) つかむ

- ① 大館市内にある「川に架かる橋」の写真を見て、知っていることや気付いたことを発表し合う。
- ② 田中橋を見学し、橋や付近の様子についてまとめる。
- ③ 田中藤治氏の生涯を年表で確認する。

#### (2) 調べる

- ④ 学習問題に即して、田中藤治氏が橋をつくる願いをなぜ県庁に出したのかを調べ、話し合う。
- ⑤ 橋を架けるための工事の実際の様子を調べ、発表し合う。
- ⑥ 田中藤治氏の生涯や人柄について話を聞き、感想を加えて発表し合う。

#### (3) 深める・まとめる

- ⑦⑧⑨ これまでに学習した事をまとめた新聞をつくり、発表会を行う。
- ⑩ 「根下戸地区かわまちづくり」について、資料をもとにして調べる。

### 3 実際の活動の様子

田中藤治氏のキャッチ  
フレーズを作り、交流する



ゲストティーチャーから  
アドバイスをいただく



子どもが  
作成した  
田中藤治新聞



「根下戸地区かわまちづくり」について話し合う

### 4 地域素材を取り入れる時のポイント

- ・ 博物館，公民館，町内会館，その事柄に詳しい方，先人と関わりのある方，などに出かけてたくさんの資料を用意する。
- ・ 子どもたちに有効な事柄を，子どもたちに分かりやすい言葉で提示できるように，資料を作り直す。
- ・ 地域素材について詳しい方々と子どもたちが関わり合う場を設定する。

### 5 成果と課題

- 地域素材を扱ったことで，先人の働きについて，より詳しく学ぶことができた。
- 地域社会に対する誇りと愛情を育てるためのきっかけとなるように単元計画を立てることができた。
- △ 教科書に記載されている「学び方」を確実に扱わなければならない。
- △ 地域素材の共有化を図らなければならない。

### 6 終わりに

現在，大館市では「大館ふるさとキャリア教育」が強く推進されている。大館の過去や現在に触れ，大館のよさを確認し，大館の未来を担う人材を一人でも多く育てていくためにも，地域素材の教材化は意義のあることと考える。これからも多くの方々からの協力を得ながら，大館についての見識を広め，子どもたちに伝えていきたい。



## 地域の一員として全校で取り組む

### 総合的な学習の時間

大館市立下川沿中学校 教諭 岸 博之

#### 1 はじめに

昨年度、東日本大震災における「釜石の奇跡」のVTRを全校生徒で観て、それについて全校道徳を行い、地域の一員として下中生には何が出来るかを全校生徒で話し合った。この話し合いがきっかけとなり、今年度、全校生徒で結集し、地域のための活動を行うことにした。その一つとして、総合的な学習を見直し、「ふるさと」というテーマをくみ入れた活動計画を再構成した。始めるにあたっては、生徒が自らの思いで進めることが大切であると考え、「全校生徒でふるさとを元気にするためにどんな活動ができるだろうか」というテーマで話し合わせ、活動の3つの大きな柱を決定した。

#### 2 活動の実際

##### (1) 全校生徒による川口獅子踊りの伝承

###### ① 全校での話し合いによる活動内容の決定

どんな形で伝承していくかを全校で話し合った。その結果、「全校で獅子踊りに取り組み、地域の人たちに元気を与えよう」ということに決定した。

###### ② 活動の流れ

- ・夏休み前にパートの希望を取り決定する。
- ・獅子踊りの有志の生徒から踊りを教えてもらいながら、生徒同士で学び合う。
- ・地域の方々を招いて演技を見てもらう。
- ・地域に披露する。

###### ③ 活動の進め方

総合的な学習の時間としてのねらいをはっきりとさせ、単なる練習にならないように、毎時間課題を提示し、前日の反省を基に生徒が主体的に学び合うというスタイルで行った。また、先生方も初めに獅子踊りのビデオを見合い、どのように進めていったらよいか検討し、練習の場面では生徒と一緒に関わりながら行ってきた。

###### ④ 獅子踊りの地域への披露（下中祭以外は、全校が分担しながら行う）

- ・生涯学習フェスティバル（中央公民館）
- ・下中祭（2部に分けて全校生徒で披露）
- ・きりたんぼまつり（樹海ドーム）
- ・下川沿地区文化祭（下川沿公民館）
- ・アメッコ市（アメッコ市特設ステージ）

##### (2) 立花ファームの活動への協力

###### ① 活動の経緯

毎年「なべっこ」のときのネギなど、いろいろな場面でお世話になっているので、それに対する感謝の気持ちを目に見える活動で伝えようと実施した。

###### ② 活動内容

全校生徒で歩いて立花ファームに行き、ネギ掘りとラベンダー畑の草取りに分かれて

作業した。最後には立花ファームの方々から活動に関する感想もいただいた。

### (3) 高齢者宅を訪問しての手伝いや交流

#### ① 訪問する高齢者宅の決定

市社会福祉協議会に相談し、地区の民生委員の方々の協力を得て今回訪問する場所を決定した。高齢者の方に訪問にあたっての要望を聞き、それぞれの班の活動の中心に据えた。それを基に活動する班を決め、3年生をリーダーとする縦割りの8班編制にした。

#### ② 訪問の計画を立てる

予め聞いておいた高齢者の要望に沿う形で班ごとに訪問の際の内容を具体的に決め、全員分のメッセージカードを作って、事前にリーダーが訪問してカードを渡してきた。

#### ③ 活動の様子

6つの班が高齢者宅を、2つの班がデイサービスセンター「えがお」を訪問し、高齢者との交流や電球の傘の掃除、草取り等を行った。交流では会話を中心にして、その他にお手玉を教してもらったり、笛の演奏を披露したり、歌ったりしてきた。活動後は、全員のお礼状に活動の様子の写真を添え、リーダーが訪問した場所に届けた。高齢者とのふれあいを通して、喜んでくださる様子を目の当たりにできた。

## 3 活動のまとめ

### (1) 生徒アンケートによる振り返り

どの活動においても取り組みに満足できた生徒が80%以上おり、今後の継続についても80%以上が続けた方がよいという結果であった。

### (2) 全校でまとめの話し合い

総合「ふるさと」のまとめとして、「下中生は地域を元気にすることができただろうか」というテーマで全校で話し合った。その際地域の方にも1名出席していただき、最後には「地域を元気にしてくれた。」「見えないところの活動を地域の人たちはわかっている。人にアピールするからよいのではなく、見えない活動を今後も大切にしてほしい。」「活動においては相手がいるのだから、人に押しつけず相手の気持ちを考えることが大切。今回はそれがよくできていた。」と好評価をいただいた。

## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ・教師から一方的に与えられた活動ではなく生徒の考えでスタートしたものであったので、生徒の主体的な活動になった。
- ・多くの生徒が地域のために何かしたい、役に立ちたいと考えるようになった。
- ・今年度うまくできなかったことを来年度はもっとできるようになりたいと思ったり、新しく取り組める活動はないか考える生徒も出てきた。
- ・どの活動も人との交流なしにはできないことなので、コミュニケーション能力を高めるうえでも良い機会となった。

### (2) 課題

- ・なるべく多くの地域の方に見てもらいたいという生徒の意見であった。見てもらうことがすべてではないが、地域のためになったという成就感にもつながると考える。
- ・次年度以降も継続した活動にするため、計画の練り直しや再構築をしながら、活動の必要性を今後も生徒から引き出すことが大切である。



# いきいき やませっ子夢プラン

～ふるさとを知り、ふるさとのよさを生かして～

大館市立山瀬小学校 教諭 奥山 法子  
 教諭 保坂 久  
 教諭 高橋美和子

## 1 はじめに

本校の学校目標は、「ふるさとに学び、未来を拓く児童の育成」です。ふるさとキャリア教育の重点施策として「地域社会の元気の源になる学校づくり」「地域とのふれ合いを重視した夢を育む教育活動」を掲げ、学校が元気であることが、地域の元気にも繋がるという思いを持ち進めています。今年度は、教職員、児童ともにふるさとキャリア教育に対する意識・意欲の向上を図るため、「やませっ子夢プラン」と題して、同日全校一斉にふるさとキャリア教育の活動に取り組みました。

## 2 具体的施策

### (1) 全体計画と学年計画の作成

ふるさとキャリア教育全体計画を作成し、それを基に各学年の年間計画を作成

#### 全体計画

『ふるさとキャリア教育』全体計画

本校の教育目標  
ふるさとに学び、未来を拓く児童の育成

児童の意義  
ふるさとに学び、未来を拓く児童の育成

児童の意義  
ふるさとに学び、未来を拓く児童の育成

#### 学年計画(5年)

ふるさとキャリア教育 5年

ふるさとキャリア教育 5年

ふるさとキャリア教育 5年

### (2) 各学年の主な実践

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">各学年の主な実践</h4> <p style="text-align: center;"><b>低学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生…「楽しいあきいっばい」「お手伝い大作戦」</li> <li>・2年生…「町たんけんに行こう」「まちの人に会いに行こう」</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">各学年の主な実践</h4> <p style="text-align: center;"><b>中学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生…「田代あるある探検隊」</li> <li>・4年生…「やませっ子リサイクル隊」</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">各学年の主な実践</h4> <p style="text-align: center;"><b>高学年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生…「おいしいやませっ子米を作ろう」</li> <li>・6年生…「地域の歴史を調べよう」</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">1年 生活科【身近な人へ関心をもつ】 「たのしいいっばい あきいっばい」</h4> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">3年 総合的な学習【職業を理解する】 「田代あるある探検隊」</h4> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">5年 総合的な学習【地域の人と関わる】 「おいしいきりたんぼを作ろう」</h4> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">2年 生活科【町のよさを見つける】 「町の人に会いに行こう」</h4> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">4年 総合的な学習【情報を収集する】 「やませっ子リサイクル隊」</h4> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h4 style="background-color: #00a0e3; color: white; padding: 2px;">6年 総合的な学習【地域の歴史や偉人】 「もっと知りたい 田代のいい所」</h4> </div>
---	---	--

### (3) 実践紹介

#### ① 2年生の実践「どきどきわくわくがいっぱいわたしたちのまち」

【地図作り、ふしぎ・おもしろ紹介】  
「地域で見つけたおもしろいもの」



【探検Part I】「グループごとに探検」  
～たけのご館で商品の説明～



【みんなにクイズ形式で紹介】



【探検後のまとめ・発表】

写真をもとにまとめる

↓

分かったこと、  
たずねたことを  
吹き出しで記入

↓

感想のまとめ



(PTA授業参観で発表)

#### ② 5年生の実践「おいしいやませっ子米を作ろう」

【田植え(6月)】

初めての田植え。広い田んぼ、足もめかっぺー



- ・ あきらめずに努力する。
- ・ 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って行動しようとする。

【きりたんぼ作り(9月)】

きりたんぼを磨いてみよっけたんぼに



地域の人とふれ合い、よさを見付ける

昔の道具を見せてもらって

【きりたんぼ祭でのお米の販売(10月)】

260kg(70袋)を完売して



- ・ 目標に向かってあきらめずに努力する。
- ・ 活動方法について工夫して解決しようとする。

【社会福祉協議会への寄付(12月)】

被災地へ届けようための寄付を



- ・ 思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動しようとする。

### 3 成果と課題

#### (1) 成果

- ・ 地域に目を向け、そのよさに気付くことができるようになってきた。
- ・ 様々な人との関わりを楽しみながら活動することができるようになってきた。
- ・ 活動で学んだことを互いに伝え合い、高めていこうとする意欲をもつことができるようになってきた。

#### (2) 課題

- ・ 今年度の活動を振り返り、各学年の年間計画を見直し、次年度に継続していくことが必要である。
- ・ 地域との関わりを深めていくために、地域との連絡を密にしていけることが大切である。





## 本校の体力向上に向けての取組 ～校内駅伝大会を中心として～

大館市立長木小学校 教諭 平山 雄也

### 1 はじめに

体力の向上は、元気に学校生活を送る上で必須となるものである。本県の課題でもある運動習慣の二極化傾向、及び走る・投げる・跳ぶなどの基本的な身体能力の低下を解消し、さらには新体力テストで本県の水準を超えることができるよう、本校独自の取組を行ってきた。

体育だけにとどまらず、各教科との関連を図りながら、ヘルスプロモーションの考え方につながる取組を、本校教職員の共通理解を図りながら行っていく必要がある。

### 2 体力向上の具体的な取組

- (1) さわやかマラソン
- (2) フィットネスタイムの実践
- (3) 校内駅伝大会



<毎朝のさわやかマラソン>

### 3 指導の様子と成果

#### (1) さわやかマラソン

毎朝決められた時間に、各学年毎に目標を決め、元気にグラウンドを走っている。

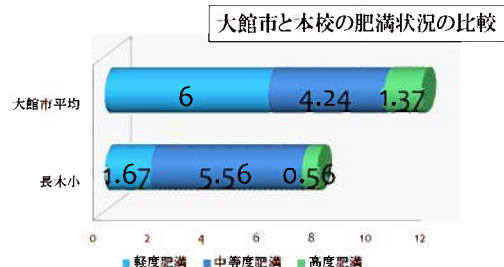
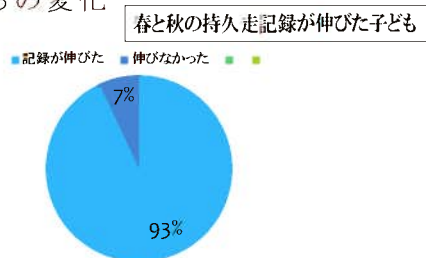
##### ①指導の時間と目標

時間	行動
8:00～8:05	朝の準備をしてグラウンドへ移動
8:05～8:10	一斉さわやかマラソン
8:15～	全校朝掃除

月	学年別目標km数(1周200m)				
4/8～5/11	1年生	2年生	6km	3年生以上	9km
5/15～6/14			6km	9km	
6/17～7/22			6km	9km	
8/26～9/28			7km	10km	
10/2～11/1			5km	8km	

※毎月の全校集会で、学年別成績優秀者を紹介する。

##### ②子どもたちの変化



春と秋の持久走の記録を比較すると、ほとんどの子どもが記録を伸ばしている。肥満傾向の子どもも、大館市の平均と比べると、大きく下回っている。

#### (2) フィットネスタイムの実践

体育の時間の始めの5分を利用して行う運動。フィットネスタイムの運動は、新体力テストの項目に合わせて、運動を推奨している。

①具体的な運動

体力テストとの関連	推奨する運動
50m走	ラダートレーニング
反復横跳び	反復横跳び
立ち幅跳び	連続立ち幅跳び
上体起こし	腹筋
反復横跳び・50m走	バーピージャンプ
20mシャトルラン	なわとび
その他複合	手押し車・ペアストレッチ



<手押し車でパワーアップ>

②新体力テストとの比較

	反復横跳び	立ち幅跳び	上体おこし	シャトルラン	50M走
秋田県平均	41.2回	146.6cm	18.8回	51.1回	9.8秒
本校平均	45.9回	156.6cm	22.5回	70.4回	9.2秒

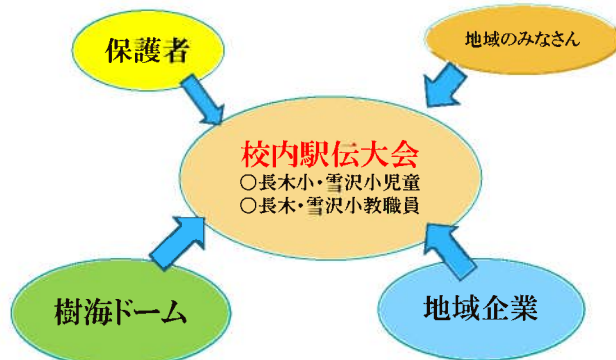
どの項目も、平均を上回っていることがわかる。

(3) 校内駅伝大会

①駅伝大会の概要

本校のバックグラウンドでもある大館樹海ドームを会場に、保護者や地域の皆様、三浦商店といった地域の企業力を借りて、開催している。

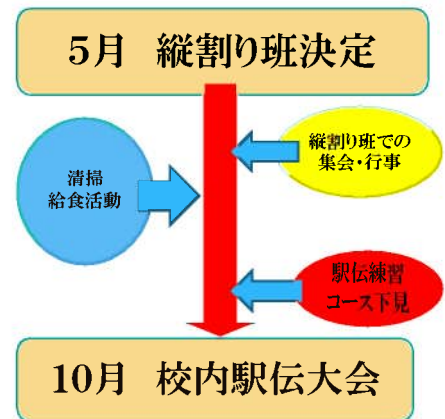
②駅伝大会のねらいと特徴



たくさんの協力を得て開催されている駅伝大会だが、チームも5月に決定し、10月の駅伝大会までの様々な場面で、所属感を高める工夫を行っている。



<チームの勝利のために>



<所属感を大切に>

4 おわりに

本校の体力の向上に向けての取組は、体育の意欲向上や、所属感・連帯感の高まりなど様々な場面で効果を発揮している。この実践を言語活動・表現力の向上、さらには、学力向上にも役立てていきたい。



## ものづくりを通した高校生の社会体験活動

秋田県立大館工業高等学校 機械科 教諭 草皆 和幸

### 1 はじめに

大館工業高等学校は、豊かな人間性と自ら学び自ら考える力である「生きる力」を育成することを目的として、全学年で体験活動を積極的に実施している。この活動の対象は、幼児とその保護者、小学生からお年寄りまでと、幅広い年齢となっており、このことが、コミュニケーション能力育成に非常に有効であると考えている。

今年度、本校では大館市教育委員会のご指導と関係機関のご協力によって、延べ20回以上も実施することができ、思いやりの心や社会性を育くむ等、所期の目的を十分に達成することができたのではないかと考える。これまで、本校の活動を支えて下さった多くの方々に改めて感謝申し上げるとともに、今後とも、ご理解とご支援をお願いして、以下にこれまでの活動の概要を述べる。

### 2 これまでの活動実績

- ・高齢者や一人暮らし宅における漏電検査や照明器具や配線周り等の清掃
- ・中学校技術の授業におけるアシスタントや小学校における出前授業
- ・まなびびあや大館圏域産業祭におけるものづくり体験
- ・巣箱づくり
- ・測量実習体験および コンクリート施工実習体験
- ・クリスマスリース及びツリー製作
- ・簡易铸造体験 におけるペーパーウェイト製作
- ・アルミ缶レリーフ製作
- ・真鍮による文鎖製作 や小型旋盤を用いたコマ作り体験

### 3 活動の目的

大館工業高校では下に示すような3つの目的を持ってこのような活動を行っている。

- |                            |
|----------------------------|
| (1) 実践を通じて知識を深める           |
| (2) ものづくりの楽しさを広める          |
| (3) 高校生のコミュニケーション能力の向上を目指す |

工業高校の目的はものづくり産業を支える人材を育成することである。このような人材を育成するためには知識や技術を身に付けさせることはもちろん、ものづくりの先には相手（お客様）がいるということを理解し、自己満足ではなく相手を満足させることが必要になってくる。そのため、校外に出てこれまでの授業の中で知り得た知識や技術を活用し、ものづくりを実践することで相手を考えたものづくりができるのではないだろうか？加えてこのような場で他者に認められる事で、自己有用感が芽生え、これまで

以上に意欲を持ってものづくりに励んでもらえるのではないかと考える。また、高校生と活動をすることでものづくりの楽しさを様々な年代の人に再認識してもらいたいとも考えている。このような活動を円滑に行うためには教える側である高校生のコミュニケーション能力が重要となる。普段の学校生活では関わりの多くが同年代であるが、就職等をして社会に出た場合は学校のように同年代における活動の場は多くない。そのため、このように異年齢との関わりの中で、自分の役割を意識して活動することで少しでもコミュニケーション能力を向上させ、社会の中で生きる力を身につけてほしいと考えている。

#### 4 活動の様子及び生徒の変化について

写真はクリスマスツリー製作会の様子（図1）である。活動に初めて参加した生徒は普段とは違う雰囲気のため、会話がぎこちなくなってしまう。しかし、時間が経つにつれ、高校生の声のかけ方などがスムーズになっていく様子が見られる。

ものづくりについて、子どもは素直であるため、製作したものについての評価も非常に厳しい。そのような状況を打破するために高校生も普段以上に集中して作業を行っている。

このような活動を行っていく中で、他者に認められた経験から高校生が自らアイデアを出し、どうしたら相手が喜ぶのかを考えてものづくりに取り組む姿が顕著に見られる。図2にあるバッテリーカーは、本校工作部の一年生が、小学生や幼稚園児には車などの動くものが喜ぶのではないかと考えて製作したものである。大館市圏域産業祭等において実際に乗ってもらうことで新たに改善点を見つけ、現在も改良を重ねている。



図1



図2

#### 5 おわりに

先にも述べた3つの目的を持って、大館工業高校ではこのような社会体験活動に積極的に取り組んでいる。ありがたいことに声をかけてくださる団体等も年々増加しており、徐々に活動の幅が広がってきている。これによって発展途上である高校生にとっても非常に良い経験をする事ができている。このようなことから目的の1つであるものづくりの楽しさを広めるといった目的についてはある程度達成できているのではないかと考えている。また、活動に参加してくださった方々からの温かい言葉や笑顔が高校生のものづくりへの意欲や知識の深化、コミュニケーション能力の向上につながっていると感じている。このような体験を通し、他者に認められ、必要とされることで自己有用感が芽生え、自分自身に自信をもつことができているのではないだろうか？このものづくりを通した社会体験活動が更に充実したものになるよう、各方面からの意見や要望を踏まえつつ、今後も継続的に活動を行ってきたいと考えている。



## 秋田県の学力向上に向けた取組について

大館市立城南小学校 教諭 樋渡 正

### 1 はじめに

秋田県は、全国学力量習状況調査において、連続して良い結果を示している。その背景には、佐賀県と違った学習指導、地域・保護者との連携、児童の生活習慣・学習習慣があるのではないかと考えた。

本年度、佐賀県学力向上推進教員派遣事業として、秋田県と福井県に教員が派遣された。私は、秋田県への派遣教員として、城南小学校に勤務している。この事業の目的は、秋田県内の学校に教員として勤務し、学力向上に向けた取組を実践したり、校外研修等に参観したりすることを通して、秋田県の学力向上に向けた取組について把握することである。

1年間、秋田県に勤務して感じたことは、日々の授業や家庭学習が学力向上につながっているということである。授業や家庭学習について城南小学校での実践を中心にまとめてみた。

### 2 授業

#### (1) 授業の進め方

「研修の手引き」には、授業展開例（城南型授業）が示されており、全職員が共通理解し、共通実践を行っている。校外研修で大館市内外の学校を訪問し、授業を参観したが、どの学校でもこのような授業展開が行われていた。秋田県内では、どの学校でも、授業の進め方が統一されていると感じた。

授業の進め方が統一されているので、学級担任が変わっても、児童は学習の見通しをもって、授業に臨むことができる。

#### 【城南型授業（算数）】

- ① 学習問題をつかむ
- ② 本時の課題をつかむ（既習事項との相違）
- ③ 解決の見通しをもつ（既習事項の活用）
- ④ 求め方を考える（自力解決：約7分）
- ⑤ 考えを検討し合う（学び合い：15分～20分）
- ⑥ 学習のまとめをする
- ⑦ 確認問題を解く

#### (2) 説明する場の設定

算数の授業において、学び合いの時間に説明する場を設定している。児童は、図・表・式・算数用語を使って説明している。説明を聞いている児童は、返事をしたり、うなずいたり、相づちを打ったりして反応している。このことによって、学び合いの時間が活気に満ちている。また、説明が途中までしかできなかった場合は、友達につなぐようにしているので、説明の苦手な児童でも発表することができる。このことが、課題を見いだして考える力・知識や情報を活用して課題を解決する力を身に付けることにつながっている。

### 3 家庭学習

#### (1) 家庭学習の内容

復習を中心とした内容になっている。今日の授業の復習、テストの見直し、テストに向けての学習、国語辞典を活用した言葉の学習、社会科・理科の調べ学習などに取り組んでいる。

#### (2) 習慣化させるための手立て

家庭学習の「手引」や「やり方」を配付したり、上手なノートを紹介したりして、保護者が協力しやすい環境を整えている。また、丸付けや問題を書くことのお願ひ、カードやノートへのサインのお願ひ、見届け・声掛けのお願ひなど、協力してほしいことを具体的に示している。

学級担任は、必ずノートへコメントを書き、児童の意欲を高めている。また、提出状況をチェックしたり、個別指導をしたりして、家庭学習の習慣化を図っている。

#### (3) 児童の様子

【「家庭学習（一人勉強）」について、児童へのアンケート】

	低学年	中学年	高学年
お家の人と一緒にすることがある。	57%	46%	27%
お家の人に丸付けをしてもらうことがある。	75%	58%	17%
お家の人に問題を書いてもらうことがある。	45%	29%	6%
お家の人に内容を相談することがある。	39%	41%	46%

児童の家庭学習の様子を把握するために、「家庭学習（一人勉強）」についてのアンケートを行ってみた。アンケートの結果より、低・中・高学年を比較してみると低学年の方が保護者との関わりが多い。低学年のうちに保護者と連携して学習習慣の定着を図っていることが分かる。また、内容についての相談を見てみると、低学年から高学年まであまり差がない。家庭学習に対する保護者の関心が高いことが分かる。

#### (4) 家庭学習ノート展

年に2回保護者参観に合わせて「家庭学習ノート展」を実施している。学級担任が選んだ良いノートが展示してある。選ばれた児童は、家庭学習への意欲がさらに増す取組だといえる。実際にノートを手にとって見るので、他の児童や保護者がそれを見て、今後の家庭学習の参考にすることができる。

### 4 おわりに

秋田県では授業の進め方や板書の仕方が統一されている。どの先生も、45分の中でねらいを達成できるように授業を組み立て、1時間1時間を大切にしている。

家庭学習においては、家庭と連携して取り組めるような体制づくりがきちんとなされており、児童の学習習慣の定着が図られている。

授業と家庭学習を徹底する。秋田の先生方にとっては、当たり前なことを当たり前に行っている。このことが学力向上につながっていると強く感じた。



# 話そう！伝えよう！自分の気持ち

～自分の言葉でのびのびと表現できる子どもを目指して～

真中保育所

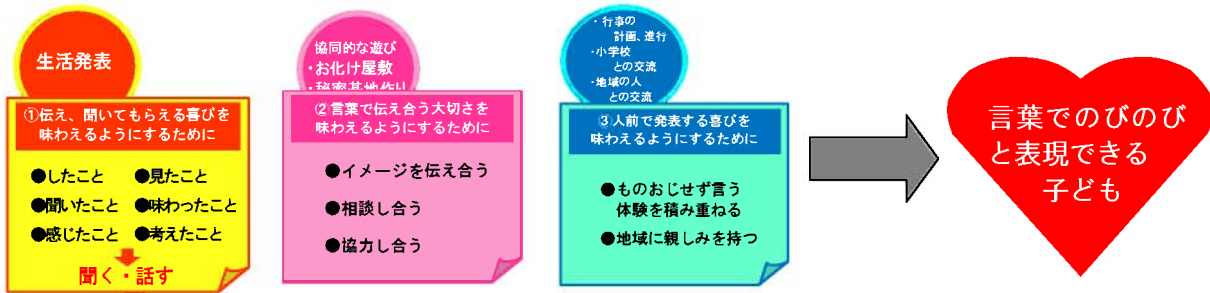
保育士 加賀谷 紫  
 保育士 虻川 美保子  
 保育士 工藤 悠

## 1 はじめに

本所では、昨年度から自分の言葉でのびのびと表現できる子どもを目指し、年長児に重点を置いて研究を進めてきた。しかし、実際に取り組んでみると、口ごもったり萎縮してしまったりするような姿が見られ、改めて、思っていることや感じたことを言葉で表現することの難しさを感じた。そのため、今年度も引き続きこの研究を進め、子ども達が言葉でのびのびと表現できるようにしていきたいと考えた。

## 2 研究の保育計画

思ったことや感じたことを言葉でのびのびと表現できる子どもを育てるために、「生活発表」、「協同的な遊び」、「行事を自分達で計画し、進める経験」や「小学校・地域との交流」という3つに重点を置き、環境を構成した。



## 3 活動の実際

### (1) 生活発表

#### ①保育士の工夫

- ・きちんとした話し言葉 ⇒ 発表の仕方を知らせる(「です」「ます」など)
- ・丹になって発表をする ⇒ 相手の顔が見える
- ・段階を踏んだ問いかけ ⇒ 質問内容を変化させたり ⇒ 相手に伝わりやすい表現
- ・話すことが苦手な子 ⇒ 言葉を添える ⇒ 優しく声をかける ⇒ 話しやすい雰囲気をつくる

#### ②段階を踏んだ問いかけ

- ステップⅠ** 子ども達から、言葉を引き出すような問いかけをする
- ステップⅡ** イメージを膨らませながら、答えなければならない質問をする
- ステップⅢ** 話しやすい雰囲気をつくりながら、自分で体験したことなど思っていることや感じたことを話せるような質問をする
- ステップⅣ** ・話したいことを自由に話せる場をつくる  
 ・手を挙げて発表することができたことを十分に褒める

#### ③活動を通じた育ち

自分の思いを相手にわかるように伝え、聞いてもらえることで話す喜びを味わうことができた



## (2) お化け屋敷ごっこ、秘密基地作り

### ①保育士の工夫

- ア それぞれの思いやイメージをつなげ
- イ 話し合いをまとめられるように援助する

### ②遊びの中で言葉で伝え合う大切さを味わえるようにするために

- ア 自分達で話をまとめられない様子



- イ 自分たちで活発に意見を出し合う様子



### ③活動を通した育ち

協同的な遊びを経験し、友達と言葉を交わしながら自分の考えがみんなの中で活かされていく楽しさや実現していく楽しさを味わうことができた。

## (3) 行事、交流

### ①保育士の工夫

- ア 子どもの思いや考えを引き出し、自主的な活動を援助する
- イ 地域に出かける機会を多く持った

### ②人前で発表する喜びを味わえるようにするために

- ア 運動会での感想発表

- イ 自分達で行事を計画し、進める経験
- ウ シナリオやセリフを自分たちで考えた劇遊びの発表（「みんななかよし」）

- エ 南小学校との交流

- オ 地域訪問（公民館、郵便局、床屋さん、J A）

### ③活動を通した育ち

- ア 行事や所内の活動の中で、自分で考えた言葉で話せるようになった。

- イ 人前や初めての場で、物おじせずに発表できるようになった。

- ウ 地域の人と言葉や挨拶を交わし、親しみを持つことができた。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

- ①生活発表の経験を通して、子ども達は今まで言えなかった自分の思いを伝えたり、友達に聞いてもらえることで話す喜びを味わうことができた。
- ②協同的な遊びの中で言葉で伝え合う大切さを知り、自分の考えがみんなの中で活かされていく嬉しさや、実現していく楽しさを味わうことができた。
- ③行事や交流活動では、人前で話す経験をしたことで、大勢の人の前や初めて経験するような場面でも友達と考えを出し合いながら発表できるようになった。
- ④この研究を通して保育士同士の保育観が共通になり、同じ思いを持ち協力し合いながら子ども達を保育することができた。

### (2) 課題

- ①保育所外での活動や初めて経験するような場面では、仲間同士では自信を持って発表することができるようになってきたが、一人ではまだ自信がもてない子も見られた。
- ②今後も、安心して話ができるように援助しながら、言葉を使って伝える経験を積み重ね、『勇気』を持って話せるようにしていきたい。
- ③今年度は年長児に重点を置いて活動を計画したが、来年度は2・3・4歳児にもこの実践を活かし、年齢に即した活動内容を考え研究を続けていくことで、子ども達に自分の思いを言葉で表現する楽しさを知らせていきたい。





# 「心と体の冒険！プロジェクトアドベンチャー ～よりよい人間関係をつくるために～」

わんパーク大館（県立大館少年自然の家） 研修員 宮野 英法

## 1 はじめに

今年度、秋田県立大館少年自然の家（わんパーク大館）に長期社会体験研修員として勤めた。そこでの様々な活動の中で、特に注目したのが「プロジェクトアドベンチャー」という活動プログラムである。注目した理由は、この活動プログラムが学校現場でも「よりよい人間関係」を作り上げるのに有効な活動であると実感したからである。

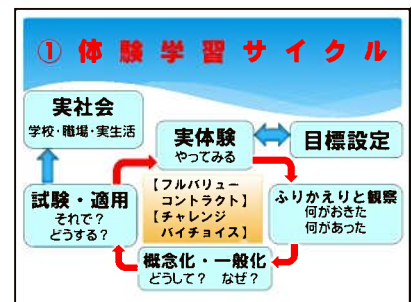
## 2 プロジェクトアドベンチャー（PA）について

### (1) PAプログラムの3つの原則

PAプログラムには、以下の3原則がある。3原則が相互に作用することで、個人や集団を成長させていく。

#### ① 体験学習サイクル

子どもたち自らが体験を振り返ることにより、そこでの気づきや学びを次の体験や実生活に生かしていくための手立て。



#### ② フルバリューコントラクト

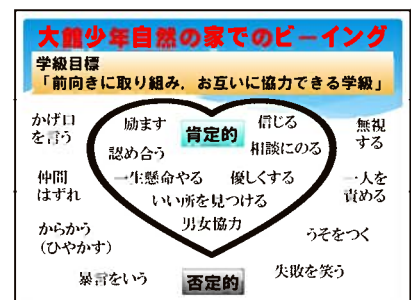
「自分を含めて、グループの誰をも軽んじたり、けなしたりしない」という、一人一人が安心してPA活動に臨むための約束。活動前には、「参加する」「一生懸命取り組む」「体も心も安全に」「常に公平・公正に」「楽しく活動する」という言葉で伝えている。

#### ③ チャレンジバイチョイス

その日の体調や、自分の様々なレベルを考慮して、参加の仕方やチャレンジレベルなどを自分で決めることができるというもの。雰囲気流されて自分の限界を超えた挑戦をしないための安全装置の役割も果たしている。

### (2) ビーイング ～自分たちで作る自分たちの規範～

フルバリューコントラクトを具体的に自分たちの言葉で視覚化したものである。PA活動では、目標を達成するために必要なことや自分ができること、活動の邪魔になることを書き出していく。学校現場では、「居心地のよいクラスにするために」という観点や「行事や活動を成功させるために」という観点で作成することもできる。活動しながら学習体験サイクルを回すことでビーイングは進化し、子どもたちの中にしみ込んでいく。



### (3) わんパーク大館でのP Aの進め方

- ① P Aの説明
- ② 交流ゲーム ⇒ チャレンジしやすい環境にするためには「心の壁を下げる」必要がある。そこで緊張をほぐすための楽しいアクティビティ（活動・ゲームの意）を行う。
- ③ ローエレメント ⇒ 体験器具を使い、メンバー同士がコミュニケーションを取り合い、身体を支え合いながら課題解決活動を行う。活動中に学習体験サイクルを回しながら、ビーイングの作成も行う。
- ④ 活動全体の振り返り

### 3 プロジェクトアドベンチャーを体験しての感想

#### (1) 子どもたちの感想から

- ・ みんなで同じ目標に向かって取り組むことができた。
- ・ 自分たちで決めた約束を守ることで、安心して、協力しながら活動できた。
- ・ 自分の考えをみんなに伝えたら「いい考えだね！」と認めてもらい嬉しかった。
- ・ 最初は動きがバラバラだったけど、リーダーとなって指示をしてくれる人が現れ、みんなをまとめてくれて良かった。
- ・ 自分や友だちが困っていた時に、お互いに助け合いながら活動することができた。

#### (2) 先生方の感想から

- ・ 子どもたちが活動している姿を、第三者的な立場で見ることにより、学級の様子をよく知ることができた。
- ・ 自分から声をかけたり、友たちをリードしたり、学校では見られなかった積極的な一面を活動の中で見ることができた。
- ・ 子どもたち自身の力で仲間と協力して、課題を解決しようと努力する姿を活動を通して見ることができた。



### 4 終わりに

様々な学校のP A活動の様子や感想から、以下のような可能性を見つけることができた。

- ・ 複数の小学校から入学する中学校や、学級編成によって新しい学級や仲間になった時に、楽しみながら新しい仲間と打ち解けるきっかけを作ることが期待できる。
- ・ 子どもたちがP Aで得た価値は、ビーイングに表される。それはP Aの時にだけ有効なのではなく、意識して使っていくことで、いつでも、どこでも、よりよい人間関係を作るための効果が期待できる。
- ・ 学習体験サイクルを継続的に使っていくことにより、自分たちで考え、自力解決するために頑張っていこうとする前向きな姿が期待できる。
- ・ 子どもたちや先生方にとって、一人一人の新しい一面を発見することにつながる。

P A活動は、短時間であっても確実に集団に変化をもたらしている。「百聞は一見にしかず」である。わんパーク大館のP Aを学級作りに活用してみたいだろうか。P A活動は、あくまでもきっかけである。活動後の継続方法についてはわんパーク大館に相談してほしい。



## よりよい人間関係を育む生徒の姿をめざして ～スクールカウンセラーの活用を通して～

大館市立第一中学校 教諭 簾内 貴典  
教諭 佐々木 司  
講師 千葉 留美子

### 1 はじめに

本校の生徒は全体として落ち着いており、基本的な生活習慣の確立や学校生活への適応の取組が軌道に乗ってきている。「英知・友愛・忍耐」という三つの校訓に加え、「共生の心」を生徒と共に教職員が大切にし、日々の学習や生活に取り組んでいる。「共生の心」とは、具体的には「思いやり・共に生きる・支え合い」と捉えている。そこで昨年度からスクールカウンセラーが複数配置になったことに伴い、これを有効活用しながら、生徒へのよりよい支援のあり方はないかと考えた。

### 2 スクールカウンセラーの複数配置について

昨年(平成24年)度から複数配置となった。配置されたのは以下の3名である。

- ・ S C (A) 大学准教授 … 学校改革推進のプロジェクトのアドバイザー  
～教員研修会の講師、日常の教育実践へのサポート～
- ・ S C (B) 臨床心理士 … 心のケア、ストレス解消、集団の中でのあり方を助言  
※25年度に交代  
～校内適応教室 不登校傾向 その他悩み相談～
- ・ S C (C) 臨床心理士 … 発達障害や病的な内容を専門に扱う  
※神経精神科リハビリテーション室  
～校内適応教室 不登校傾向 その他悩み相談～

### 3 本校の生徒の支援に向けた二年間のスクールカウンセラーの活用について

#### (1) 平成24年度

- 5月 ・校内研修会Ⅰの講師〈育てる生徒指導への転換〉  
→誰もが行きたくなる学校の創成、人間関係づくりについて
- 8月 ・校内研修会Ⅱの講師〈マルチレベルで考える学習支援〉  
→通常学級や特別支援学級における学習支援・サポートのあり方
- ・小中連携研修会の講師〈自信をもって社会で活躍できる生徒を育てる〉  
→9年間で学区の生徒をどのようにして育てていくかの共通実践の模索
- 12月 ・PTA研修会にて保護者向けに講話〈自信をもって社会で活躍できる子に〉  
→保護者にも支援を要請、学校側との連携と協力をお願い
- 1月 ・社会性と情動の学習へのアドバイス〈SEL(ソーシャル・エモショナル・ラーニング)〉  
→日常におけるスキルトレーニング
- 3月 ・生徒会によるいじめ撲滅運動〈かがやき集会〉への助言  
→生徒の生活実態調査、ブルーリボン運動の提案  
※二人の臨床心理士による、生徒や保護者へのカウンセリングを随時実施

(2) 平成25年度

- ① アセスの継続実施の声かけ(生徒の適応の実態、昨年度データとの比較・現状把握)
- ② 校内外研修の講師
  - ・小中連携(人間関係づくりを推進するためのコミュニケーションスキル能力を考えよう)
  - ・校内職員(話し合い活動の充実、コミュニケーショントレーニング)
- ③ 学級活動(学級担任とのTT指導)への活用
- ④ 進路学習〔鳳雛講座〕での講師
- ⑤ ブルーリボнтаイトの導入のアドバイス

※二人の臨床心理士による、生徒や保護者へのカウンセリングを随時実施

4 ブルーリボнтаイト(授業時の話し合い活動)の取組について

(1) ブルーリボнтаイト実践の理由

教科学習の中でも、生徒の互助精神やコミュニケーションスキルを高めたい(SCからの助言)。

(2) スクールカウンセラーの授業参観より

- ・現状の把握
- ・改善策と今後に向けて

(3) 生徒の変容〔アンケート結果から〕

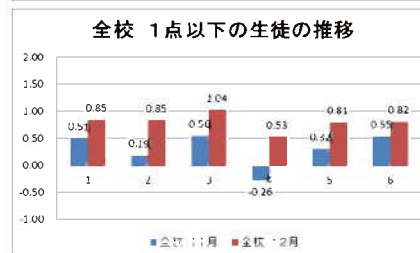
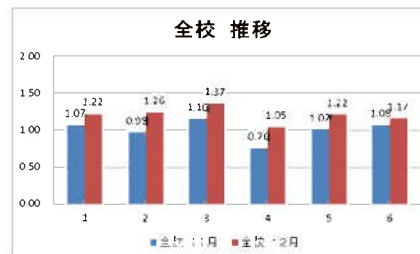
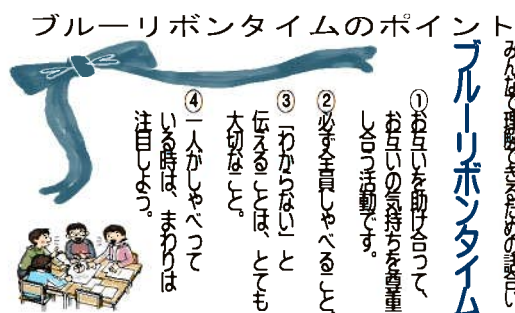
調査項目

- ①一人で考える場面で、自分なりの意見を持っている。
- ②ペアやグループ学習時に、自分の考えを伝えている。
- ③わからないときに、「わからない」と伝えている。
- ④困っている友達に手助けをしている。
- ⑤グループ学習のとき、自分の役割を果たしている。
- ⑥聞くときと話すときとで、態度を切り替えている。

A～Dの4段階で自己評価、

A:+2、B:+1、C:-1、D:-2点として計算。

グラフのように、いずれも伸長が見られる。



5 成果と課題

(1) 成果

- ・専門的アドバイザーの存在(定期的な職員研修の実施、職員へのアドバイス)
- ・教科指導(ブルーリボнтаイト)への支援体制
- ・臨床心理士の専門性を生かしたカウンセリング(チーム支援、信頼関係の向上)

(2) 課題

- ・常駐ではなく、つねに連絡調整しながら、さらなる有効活用の手段を模索中である。



## 熱く挑戦、感動を共有 ～集団の高まりを目指した東中 Family～

大館市立東中学校 教諭 安部 寛  
教諭 鶴ヶ崎 和華子  
教諭 石垣 修  
教諭 小川 健介

### 1 はじめに

本校では今年度、「熱く挑戦、感動を共有」という経営方針のもと、全職員で意識しながら、教育活動の様々な場面で集団の高まりを目指した活動を実践してきた。従来からある活動をただ踏襲するだけでなく、新しいことに積極的にチャレンジしながら「伝え合う」「分かち合う」「高め合う」をキーワードに、PDCACサイクルで実践を積み重ねてきた。特別活動指導部の実践の中から取り組みを紹介する。

### 2 活動の実際

特活指導部では、「主体性の育成を図り、互いに高め合う活動の推進」を目標に、取り組みを行ってきた。

#### (1) 生徒会活動

##### ① 東中祭に向けた生徒会活動

「伝え合う」「分かち合う」「高め合う」ための手立ての1つ目は、目標とゴールを明確にすることである。東中をどのようにしたいのか、ゴールをどこに設定して成果を確認するのかを執行部に考えさせ、明確にさせた。生徒たちの答えは、「まごころ」をテーマにして、東中を思いやりあふれる学校にし、普段の生活で育んだ「まごころ」を、東中祭で地域の方々を感じていただくというものであった。そこで平成24年度後期生徒会テーマは、「まごころ 深めよう 思いやりと豊かな心」とした。例年、後期から前期へ移行する際に生徒会テーマを変更していたが、目的が曖昧にならないように今年度はこのテーマを継続した。

手立ての2つ目は、生徒の意識を高めるための常時活動である。東中祭で思いやりを発揮するためには全校生徒の「まごころ」を育む必要があった。常時活動を工夫し、普段の生活の積み重ねから全員の「まごころ」を育てようという考えから、生徒たちはおあいさつ運動を考案した。心のこもった普段の「あいさつ」が、豊かな心を育てていくという理由からであった。内容は、「お・はようございます。「あ・りがとうございます。「し・つれいします。「す・みませんの頭文字をとったあいさつ運動である。

手立ての3つ目は、教師と生徒の両方で共通理解を深めたことである。東中祭のテーマ決定をしてから、そのテーマに基づいて各部門で活動計画を作成し、さらに生徒の部門代表者の会議を開き、テーマに沿っているかを精査し、さらに活動計画を練り直し、決定した活動を全校生徒で理解するために集会を開いた。繰り返し考えることで、より良いものを作るとともに、共通理解を図った。生徒の自主性や主体性は大切であるが、任せきりにすることで、ゴールが曖昧になってしまうことがある。生徒の自主性を生かしつつ、適切な支援を行いながら、見守る姿勢を大切にしたい。生徒と教師が一体となり、一つのテーマに向かって準備を進めることができたと思う。その東中祭のテーマが、

「Thanksgiving day ～伝えよう 広げよう ありがとう～」であった。生徒会テーマの「まごころ」とリンクしており、育んできた力を発揮しようという意気込みが伝わるものとなった。

## (2) 話し合い活動

ねらいとして、話し合う活動を通じて、積極的に問題を解決しようとしたり、良好な人間関係を作っていこうとしたりする生徒を育てることを目指した。今年度行った話し合い活動は3回である。今年度初めての試みであったが、特活部が主導して議長を指導して話し合いを行わせた。その際に、県教委から示されている「中学生熟議のすすめ」を参考にした。

### ① 1回目：学級ごとにテーマを設定して実施（5月、学級）

- 例) ◆長縄をたくさん跳ぶための作戦を立てよう  
◆「行進」で1位になるためにはどうすればよいか

### ② 2回目：学級の諸問題を解決しよう（10月、学級）

- 例) ◆挙手のしすぎはいけないのか  
◆授業によってうるさくなるのはどうしてか

### ③ 進路に関する学習（1月27日、全校）

進路に関する内容の資料を読み、進路選択をする際に必要なことについての意見交換



## (3) 異年齢集団での活動

### ① 東中ボランティア

町内でのボランティアに取り組み、地域へ貢献しようとする意欲や態度を育てること、地域に貢献していることを実感させ、地域への所属感を高めることを目指して行った。より一層必要感をもたせるため、町内生徒同士で話し合い、自分たちの日常生活を振り返りながら、どんなボランティアが必要とされているか話し合わせた。町内班長に町内会長さんのお宅に伺わせ、活動案に助言してもらったり、町内に必要な活動例を提示してもらったりした。地域で実際に必要とされる活動を行うことによって、地域に貢献できたという実感をもたせるためである。



### 【←地域の神社の境内につもった土砂の撤去を行った町内】

8月の大雨により、大量の土砂がこの地域には流れた。町内会長さんが地域住民にも参加を呼びかけ、一丸となって撤去作業をした。

### ② 東中太鼓の伝承

4月：入学式（3年選抜）、5月：運動会（2年生全員：闘魂太鼓3年生全員：鳳凰太鼓）、9月：生涯学習フェスティバル（3年選抜）、10月：大館きりたんぽまつり（2・3年選抜）、11月：太鼓伝承（3年生から1年生へ、2年生も参加）



### 【太鼓伝承式】

## 3 成果と課題

- 生徒が現状や課題を認識し、改善していこうとする意識が向上した。
- 活発な意見交流が見られ、互いに伝え合おうとする意識が向上し、集団として高まっていく姿が見られた。
- 学級集団や異年齢集団の関わり合いを通して、良好な人間関係が構築された。
- 集団としての高まりが個人の自己実現につながっているか、そしてその成長の見取りをどのように行っていくかが今後の課題である。



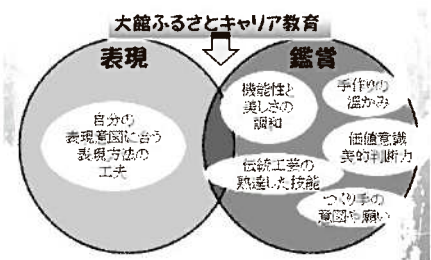
## 人がつくる 技を極める ふるさとの匠に学ぶ大館曲げわっぱ

大館市立田代中学校 教諭 成田 麻衣

### 1 構想

子どもからも大人からも聞こえてくる「大館は何もない」というつぶやき。たくさん魅力的なものがあるが気付いていないだけで、美術の授業を通して、自分が育った大館の美しいもの、大切なもの、誇れるものを見つけてほしいと考えた。

図のように、美術では表現と鑑賞の二つの分野を学習する。それに大館ふるさとキャリア教育を取り入れて、ふるさとを見つめ直して大切なものを探したり、伝統工芸品を実際に使ってよさを実感したり、伝統文化や手仕事にこめる思いを知ることがふるさと大館への愛着と誇りにつながると考えた。



### 2 実践

#### (1) 私のふるさと写真展

表現の分野において、自分のふるさとへの思いを写真で表現する「私のふるさと写真展」を行った。「自分にとってのふるさととは何か?」というテーマで、生徒が構図や被写体、時間などの表現を工夫し写真を撮り、展示した。どの写真にも生徒の思いがあふれており、思いが伝わる写真展となった。



#### (2) 大館曲げわっぱの鑑賞

大館曲げわっぱは教科書に載っているものの、子どもたちは日常生活で触れる機会が少なく、なじみがない。ふるさとが誇る大館曲げわっぱを鑑賞し、工芸品のよさや美しさを感じさせようと考えた。

##### ①教材・素材集めと構想

授業の実践にあたり、大館にあるものを教材として生かそうと考えた。郷土博物館の曲げわっぱ展示室には、普段見ることのない新しいデザインの製品がたくさんあり、生活に合わせて新しいデザインが生み出されていることがわかる。また、大館曲げわっぱ体験工房では、伝統工芸士の佐々木さんから、たくさんの独創的な作品をお借りすることができた。さらに、学校のすぐ近くには伝統工芸士でもある大館曲げわっぱ職人の九嶋さんの工房があり、ゲストティーチャーとして職人の立場からお話していただくことができた。

これらの教材や人材を生かして、伝統工芸として受け継がれている根本的なよさや、生活に合わせて変化し続けているなどの大



館曲げわっぱの魅力を生徒に伝えようと、授業を右図のように三段階で構想した。

### ②授業実践1 [大館曲げわっぱについて知る]

形の美しさや素材の特性などのよさを味わい、また大館曲げわっぱに自分なりの価値を見出すことを目標に授業を実践した。知識ではなく、製品を実際に使う体験を通して、なめらかさや軽さ、木のあたたかみ、口触り、保湿性、香りなどのよさを実感させることに留意し、さまざまな製品を用意した。そのなかで生徒は、木のよさや曲げわっぱの雰囲気、「和」のよさなどを感じ、味わっていた。

### ③授業実践2 [職人をゲストにお話を聞く]

学校の近くに住む大館曲げわっぱ職人の九嶋さんに来ていただき、職人としての立場から生徒にお話をしていただいた。内容は、曲げわっぱの成り立ちやデザインのよさ、手作りのよさや作り手としての伝統工芸への思いなどである。九嶋さんには、自分の作品や受賞した最新作、木を切り出す昔の技術の図解なども用意していただいた。また、匠の技も実演していただき、生徒はひきこまれ、目を輝かせながらお話を聞いていた。

【生徒の感想より】

曲げわっぱは知っていたが使ったことがなく、なじみがなかった。でも、よく知ることができて今は身近に感じる。

**授業①大館曲げわっぱについて知る**  
様々な曲げわっぱ製品を体験し、よさを味わう

**授業②職人をゲストにお話を聞く**  
九嶋さんに来ていただき、職人としての立場から伝統工芸や作り手の願い、匠の技、歴史などについて話していただく

**授業③郷土博物館を見学**  
ライフスタイルに合わせて新しく変わり続ける大館曲げわっぱを味わう

本物と出会い、触れ合い、よさを味わう実体験



歴史を感じた。  
大館の人たちが  
曲げわっぱを大切に  
してきたんだと感じた。

自分の  
曲げわっぱが  
ほしいです。

## 3 成果と課題

大館曲げわっぱを扱う中で、生活の中の美しさ「用の美」を感じさせることができた。また、地域の人材を活用することで、子どもたちもゲストも親近感をもって触れ合うことができた。

今後の課題として「大館曲げわっぱはいいもの」という価値を押しつけない授業展開をする。「地元のものだからいい」ではなく、工芸品としての美しさをもっと感じさせる。また、よりねらいにせまるようなまとめをし、伝統工芸とふるさと大館、両方への価値をつくりだせるようにしたい。そして、本物の職人とのふれあいを通して、「働く」「好きなものを追求する」という姿勢に学ばせたいと思う。





# 小学校低学年における ユニバーサルデザインを意識した 学級・授業づくり

大館市立成章小学校 教諭 宮野 田鶴子

## 1 はじめに

学級に複数名いる支援を必要とする児童を学級づくり・授業づくりの指針にし、環境を整えたり、支援の仕方を考えたりすることで、学級の全ての児童にとっても、楽しい学級、わかる・できる授業を目指したいと考え、「ユニバーサルデザイン」を意識して実践を行った。

## 2 具体的な取り組み

### (1) 環境づくりについて

#### ①場の構造化

ひと目で分かる いつでも整頓

写真を手本にして整頓ができるようにし、本棚、ロッカー、机の引き出し等の整頓を指導した。



【ロッカーの整頓】

#### ②刺激量の調整

刺激をコントロール

刺激に反応しやすく、人や物に気をとられて集中できない児童への配慮として、教室に可動式の壁を取り付けたり、椅子にテニスボールを付けたりして対応した。また、支援を必要とする児童の座席は前方の端にして、担任や支援員が声をかけやすいようにし、テストや練習問題をやる時には、友達の動きに気を取られないよう、机を壁の方に向けて取り組ませた。

#### ③ルールの明確化

学習に集中するための約束

学習の約束は掲示物や合い言葉を使って、繰り返し指導した。全校で「話し方名人」「聞き方名人」「話型」等を統一して教室に掲示して活用した他、低学年の入門期の指導として、鉛筆の持ち方と書く姿勢は、合い言葉で指導した。これは、定着しやすく、声もかけやすかった。

### (2) 授業づくりについて

#### ①時間の構造化

単元の学習計画の提示

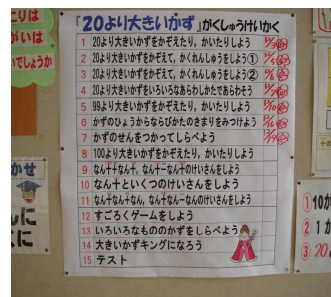
今日は何を学習するのか、全体の中でどの位置にいるのかが理解でき、見通しがもてるように、児童にわかる言葉で単元の学習計画を作成して掲示した。

1時間の学習の流れの掲示

1時間の中で今どの位置にいるのか理解でき、次に何をやるのかが視覚的にわかるように1時間の学習の流れを黒板の端に掲示した。

時間の区切りを明確にする

先が見えずに集中力を欠いたり、時間を計画的に使えなかったりする児童がいたので、タイマーや算数の教具の時計を活用し、「何分間でやる」「長い針が何までに終わらせる」と活動を予告し、提示した。



【算数の学習計画】

## ② 情報伝達の工夫

### 教室以外でも活用できる提示

教室以外での学習の際に、スケッチブックや小黒板を活用した。これは、教室で説明したものをそのまま外に持って出て行けるし、次の時間にも使うことができる。また、聴覚情報は消えていくが、視覚化されると残っているし、確認ができる。

### 話し方・書き方のスタイルの提示

多くの情報を整理することは難しいので、話し方や書き方のスタイルを示した。スピーチや質問の話型は作文を書く際にも活用できるし、算数で用いている穴あきの話型は、いつも同じパターンで考えていけるので、自分の考えを整理するのに有効であった。



【ことばの木】

## ③ 参加の促進

### 既習事項の掲示

A1判が印刷できるプリンターを活用し、教科書などからスキャナーで取り込んだものを授業で使い、そのまま学習コーナーに掲示した。実際に授業で使ったものを張ることで、その授業のことを思い出すことができ、復習にも活用できた。

### 補助教具

教科書やプリントの文字を目で追いながら読むのが難しい児童のために、カラークリアファイルを行に合わせて切った「スリット」を作って使用した。

### ペア・グループ学習

少人数で自分の考えを発表し合える場面をもつようにした。発表の時に、おもちゃのマイクを使い「インタビューごっこ」をしたところ、大変意欲的に話せるようになった。



【インタビューごっこ】

### 支援員との協力

特に支援を必要とする児童2名は座席を最前列にし、支援員の動線を考えて、2人を並べて座らせた。また、毎日「支援記録」という日誌を書いてもらい、週末に見せてもらった。そして、週に一度、担任と支援員とで情報交換などをする打ち合わせの時間を設け、行事や学習計画に合わせた支援をお願いした。

## ④ 学習内容の構造化

### 授業のパターン化

授業の組み立てをできるだけパターン化して進めることによって、子どもたちは見通しがもてる。今やることが分かると、安心感もあるようだった。

### 板書と手元（教科書、ノート、シート）の一致

子どもたちに渡したシートを拡大して黒板に張り、書き方を示したり、ノートのマス目の字数と板書が同じになるようにしたりした。また、教科書で使われている図などもスキャナーで取り込んで、できるだけ同じものを使うようにした。

## 3 成果と課題

- 学びやすい環境づくりをすることで、学習や作業が効率的に行われ、効果も上がった。また、それは学習面だけでなく、学級づくりにおいてもよい影響があった。
- 時間や学習内容を構造化することで、児童も教師も見通しをもちながら学習を進めることができた。
- 支援を必要とする児童はもちろん、上位の児童の力を伸ばすための学びにも繋がった。
- 授業や生活の困難さ等の実態把握をしっかりと行い、支援員との関わりを含めた有効な支援方法を探る。
- 学校体制の環境づくりや授業改善を行い、指導力の向上を図る。



# 思考力・表現力を育てる授業はどうあればよいか ～6年算数科の授業実践を通して～

大館市立南小学校 教諭 和泉 克子

## 1 はじめに

本校の子どもたちは、まじめで与えられた課題に対しては一生懸命頑張ろうとする意欲はあるが、自分で考えたり人前で発言したりすることを苦手とし、自分で判断し行動する力が十分に育っているとは言えない。そこで今年度は算数科を中心として、思考力・表現力を育てるためには授業をどのように構築していったらいいかを課題として研究を推進してきた。この研究主題を受け、6年生の授業のTTに入りながら実践してきたこと、また前々任校から継続して取り組んできたことなども合わせて紹介したい。

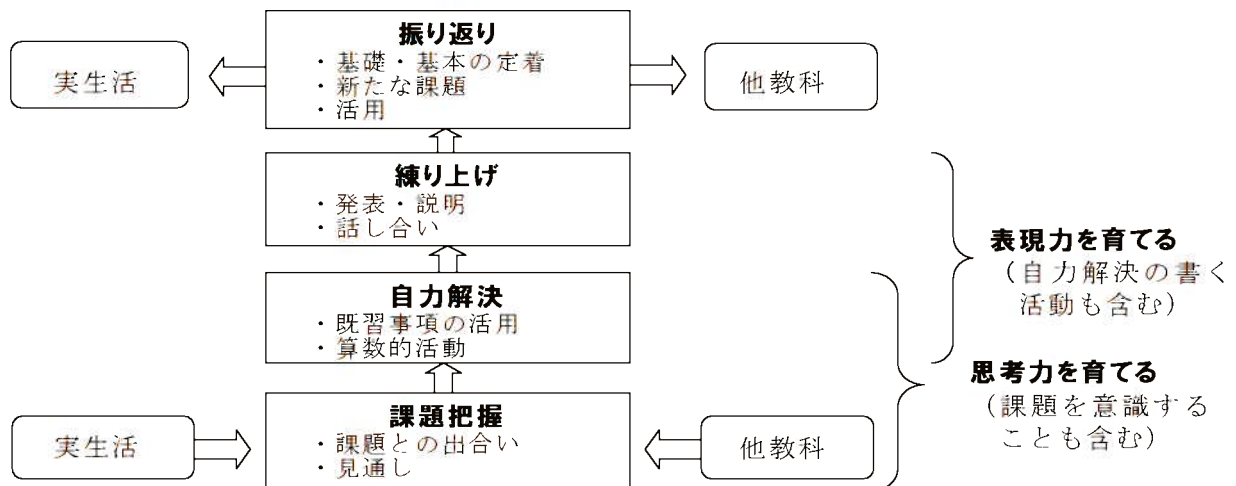
## 2 算数科の授業で目指す子ども像

- 主体的に学習に取り組む子ども
- 満足感、成就感をもって授業を終えられる子ども

## 3 算数科の授業で目指す学習過程

課題意識をもって、主体的に課題に取り組み、共に学び合うことで、より高いものを見出し、生活に生かそうとする子どもを育てる問題解決的な学習を展開することが重要である。

### <算数科における問題解決的な学習の流れ>



## 4 思考力を育成するための実践

### (1) 課題把握の場の工夫

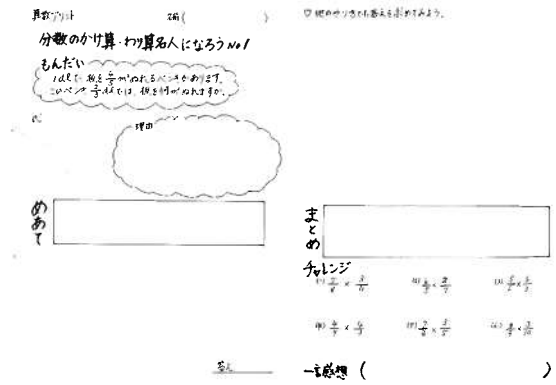
- ① 学習課題を導き出すための活動を取り入れる。
- ② 身近な生活の中から、興味のある事項を学習課題に取り入れる。
- ③ 行動目標で、具体的な学習課題を設定する。

<例> 「川幅の実際の長さを縮図にかいて求めよう」

- ④ 子どもの言葉を学習課題に取り入れる。

## (2) 自力解決の場の工夫

- ① 課題解決の見通しをもてるようにする。  
(学習コーナーの活用)
- ② 学習シートを活用する。
- ③ 操作活動できる場を設定する。
- ④ ヒントコーナーを設定する。



【自分の考えを自由に書いていける学習シート】

## 5 表現力を育成するための実践

### (1) 練り上げの場の工夫

- ① 話し合いの仕方を支援する。
  - ア 「聞き方名人」「話し方名人」を活用
  - イ ハンドサインの活用
  - ウ 話し合いの視点を明確に!
- ② 発問や指名の工夫をする。
  - ア 理由や根拠にこだわった発問
  - イ 挙手による指名・意図的指名・相互指名
- ③ 学習形態を工夫する。
  - ・ グループ→一斉, ペア→一斉, コース別学習などを取り入れての話し合い形態の工夫
- ④ 活発な話し合いができる学級づくりに取り組む。
  - ア 何でも話せる温かい学級づくり
  - イ 話し合う場をできるだけ多く設定



【観点→言葉→図等と段階をおったヒントを設定】

【一人一人が考えをもつためのハンドサイン】

## 6 学ぶ意欲を高めるための実践

### (1) 学習形態の工夫

- ・ 一斉学習, 少人数学習, 習熟度別学習, 課題選択学習, 順序選択学習, 自由設定学習…ねらいに応じて設定する。

### (2) 生活に生かす活動の工夫

- ・ 単元の導入や終末で日常生活と関連した活動を取り入れる。



【課題選択学習…「水のかさコース」「てんびんコース」「バネばかりコース」の3つのコースに分かれて変わり方を調べた後、全体で確認し合う】

## 7 成果と課題

### (1) 成果

- 課題意識をもって自力解決することに意欲的に取り組むようになった。
- 発表することに抵抗を感じていた子どもが、自分から発表するようになった。
- 満足感・成就感をもって授業を終える子どもが多くなった。

### (2) 課題

- 子どもの生活に結びついた学習課題を設定する。
- 学習の定着を図る学習展開や時間配分を工夫する。
- 練り上げのための手立てをさらに工夫する。



# 「先生、オレ、何にむいてるのかなあ？」 ～「自分とは」と問い続け、 自己の未来を見据えるキャリア学習～

大館市立有浦小学校 教諭 田村 直子

## 1 はじめに ～Key word：現実吟味・適性・単元構成～

進路の探索・選択に関しては、小学校段階は「基盤形成の時期」とされているが、高学年担任の経験を重ねる中で、『もう一歩ふみこんだ指導が可能ではないか。』という考えをもつようになった。本稿では、平成23～25年度の3年間に実践した、6年生におけるキャリア学習の一端を報告したい。

## 2 平成23年度 ～桂城小学校6年生での実践（11月～3月）から～

総合的な学習の時間を核として、主に職業探索にかかわる単元を2つ設定した他に、教科・領域の中から関連する主な内容を取り出して、総合的に学習を進めた。

- 「色々な職業を調べよう」（総合的な学習の時間）…………… 4時間
- 「未来予想図を作ってみよう」（総合的な学習の時間）…………… 2時間
- スピーチ「I want to be a～」（外国語活動）…………… 4時間
- スピーチ「今、わたしは、ぼくは」（国語）…………… 7時間

### 〈実践例〉「未来予想図をつくってみよう」

進学先の高校、専門学校、大学、資格取得、就職先、住居、結婚、出産など、小学校卒業後の20年間の「予定」を、なるべく具体的に考えさせた。子どもたちは自分が主人公になった未来予想図に向き合うと、現実的な視点で自分の未来について考え始めた。

## 3 平成24年度 ～有浦小学校6年生での実践（11月～3月）から～

有浦小学校では、キャリア教育において、「地域の人材が最高の教材」「子どもに夢を」を合い言葉にしている。6年生におけるキャリア学習では、現実的な視点で考えることもできるよう配慮しながら、前年度の実践に手を加え、総合的に単元を組んで実施した。

### （1）「色々な職業を調べよう」の実践

- ・活動内容は前年度桂城小で実施したものとほぼ同じである。ただし、活動の中で、教師が現実的な視点や適性を加えて助言することを試みた。
- ・対話の第一段階として「どうして野球選手になりたいの？」などと職種選択の理由をたずね、動機を尊重するよう配慮した。そして第二段階として、「B君は教えるのが上手だから、コーチもいいね」などと、その子どもの長所も交えつつ、助言を試みた。
- ・対話の結果、子どもたちは、「そうか、その手もあるか」「スポーツトレーナーなんて、いいなあ」などと新しい視点をもって調べ学習を進めることができた。

### （2）「夢講座」の実践

- ・本単元は複数名の外部講師による授業が中心で、子どもたちは2日間で4人の外部講師

の方々のお話を聴くことができるよう設定している。

- ・子どもたちからは、「その仕事に就きたいという気持ちが、強くなった」「なりたいものを早く見付けて頑張っていこうと思った」といった前向きな感想が出ていた。
- ・夢講座後、発表題にある「先生、オレ、何にむいているのかなあ」という言葉が学級の子どもから出るようになった。自分の適性や、自己の未来を、現実的な目をもって考える子どもが出始めたのである。『小学校での進路探索、もう一歩いけるのでは』という実感や手応えを感じた。

#### 4 平成25年度～有浦小学校6年生での実践（10月～）から～

6年生担任の3年目は、過去2年間の実践と子どもたちの様子を基に、子どもの自尊感情を高めつつ、自己を見つめ、その考えをまとめ、発信していくことができるよう、下図のように総合的キャリア学習を構成した。

##### (1) 単元構成の工夫

- ・今年度は、昨年度2月下旬に実施した「夢講座」を12月に実施した。3学期は自分の考えを発信する時期としてとらえ、保護者へのスピーチや4年生への英語劇の発表などの活動を予定している。

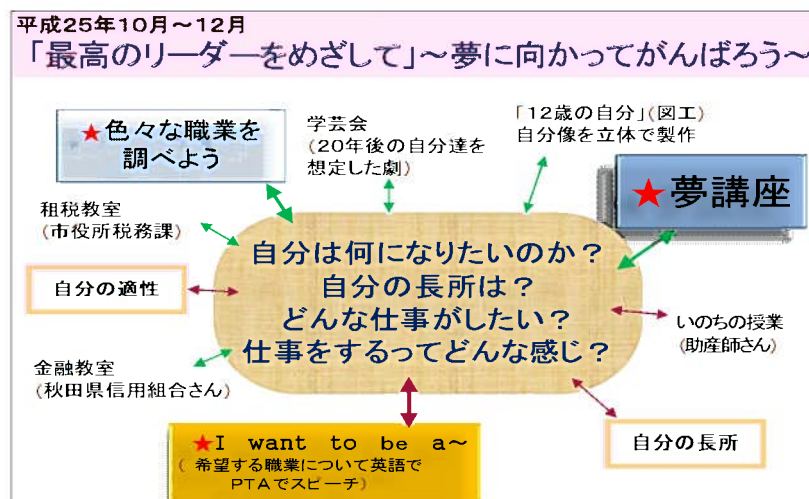
##### (2) 適性と長所について考える時間を設定

- ・今年度は新たに、自己を見つめる機会、自尊感情を高める機会として、適性と長所を考える時間を設定した。適性については、30程度の職業をなりたい職業とそれ以外の職業に分け、その理由を考えるといった活動を設定した。子どもにとって自分自身を分析する活動は新鮮だったらしく、熱心に取り組んでいた。

#### 5 おわりに

6年生における3年間のキャリア学習の実践を通して、進路に関して様々な角度から考えること、そしてそれが可能となるような単元構成を工夫することで、6年生段階では、進路・職業探索について、一歩も二歩も踏み込んで考えることができると感じている。

今後も、子どもが中学校へ希望と決意をもって進学することができるよう、個々に応じたよりよいキャリア単元をつくり、子どもの未来を応援していきたいと思う。





## 進んで社会を見つめ、自ら働きかける社会科学習 ～社会科+総合的な学習の時間 =大館ふるさとキャリア教育～

大館市立東館小学校 教諭 山本 起嗣

### 1 はじめに

大館市では近年、キャリア教育に全市をあげて取り組んでいる。子どもが自ら主体的に関わっていく活動が理想的であるが、総合的な学習の時間にそのような高い意識をもたせるには、単元との出あいが必要であると考えます。本校では、5年生が毎年「米作り」の活動をしているが、目的意識が薄いまま活動している場合もあったと思われる。過年度の5年生は秋田市で米の販売活動を行ったり、東日本大震災の被災小学校へ送ったりという活動をしているが、外への意識がある分、子どもたちの活動意欲は低くなかったと思われる。これらの現状を踏まえた際、社会科で日本の農業の現状をしっかりと把握し、問題意識をもたせることができれば、自ら主体的に関わっていける総合的な学習の時間が成立すると考え、本主題を設定した。

### 2 研究の内容

#### (1) 研究の仮説

- ① 自分たちの身近な地域の素材を教材として扱うことにより、知りたい、調べたいという意欲が高まるのではないかと。
- ② 総合的な学習と関連させて学習することで、活動の幅が広がり、社会への働きかけを含め、公民的な資質の基礎を養えるのではないかと。
- ③ 地域人材の活用方法を工夫することにより、生きた社会に触れられるのではないかと。

#### (2) 研究の方法

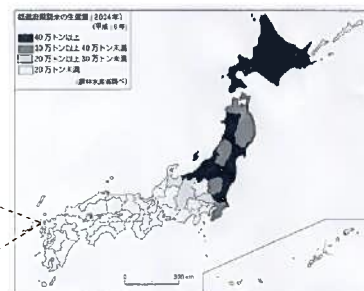
- ① 秋田県の稲作農業の教材化
- ② 総合的な学習の時間と関連させた単元計画の工夫
- ③ ゲストティーチャーの活用、シンポジウムの実施、校内外でのPR活動の実施

#### (3) 研究の実際

##### ① 秋田県の稲作農業の教材化

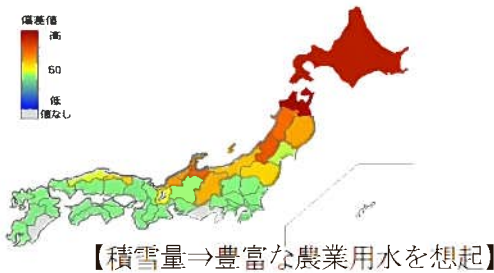
秋田の農業に興味をもたせたり、資料活用の能力を高めたりするための教材を開発した。また、資料を読み取ることで、新たな問いが生まれるような資料の準備に心がけた。

表題を隠して「何を表した地図か」を問うと、「降雪量」という答えが返ってくる。米の生産量だと知らせると、「なぜ、大生産地が北日本にかたよっているのか」という問いが新たに出てくる。そこで、「なぜ秋田県では米作りがさかんなのだろうか」という学習課題で学習を進めていくこととし、予想をたて、検証していくこととした。



【米の県別生産量】

資料は子どもの予想が正しいことを裏付けるもの、子どもが扱いやすいように作り直したものを準備するようになった。

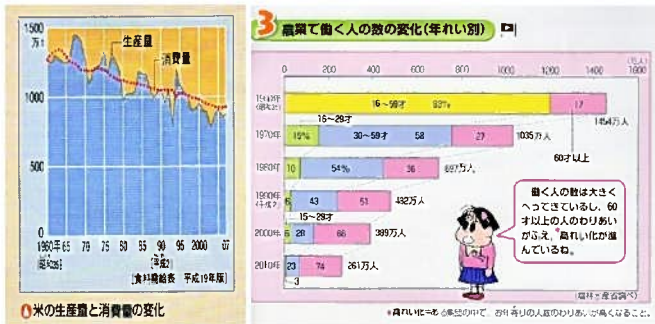


資料③ 日本の主な河川(115/109) 一級河川13989 二級河川17084

主な河川(水系)	流域面積 (km <sup>2</sup> )	延長 (km)	流量	流域	河口
1 利根川(とねがわ)	18,840	322	256	群馬県、長野県、茨城県、茨城県、埼玉県、埼玉県、千葉県、東京都、東京都	太平洋(千葉県千葉市、茨城県浦安市)
2 利根川(いかりがわ)	14,330	268	400	上川支庁、空知支庁、石狩支庁	石狩湾(北海道石狩支庁)
3 阿武野川(あぶのがわ)	13,781	210	451	新潟県、群馬県、福島県	日本海(新潟県)
4 信濃川(しなのがわ)	12,897	397	518	新潟県、群馬県、長野県	日本海
5 北上川(きたかみがわ)	10,150	249	391	岩手県、宮城県	日本海(岩手県宮古郡、宮城県仙台市)
6 津軽川(つごがわ)	9,100	229	169	長野県、岐阜県、愛知県、三重県	伊勢湾(三重県)
7 十勝川(とかがわ)	9,010	156	203	十勝支庁	太平洋(北海道十勝支庁)
8 荒川(あらかわ)	8,240	75	163	埼玉県、東京都、大阪府、奈良県、三重県	大阪湾(大阪府)
9 荒川(あらかわ)	7,040	229	249	山形県	日本海(山形県)
10 利根川(てしおがわ)	5,900	256	188	北川支庁、釧路支庁	日本海(北海道釧路支庁)
11 阿武野川(あぶながわ)	5,400	239	131	福島県、宮城県	太平洋(宮城県)
12 利根川(てんねうがわ)	5,090	213	135	長野県、愛知県、静岡県	遠州灘(静岡県)
13 利根川(おものがわ)	4,710	133	315	秋田県	日本海(秋田県)
14 利根川(よねしろがわ)	4,100	136	224	岩手県、秋田県	日本海(秋田県)
15 利根川(よねしろがわ)	3,990	128	53	長野県、山梨県、静岡県	静内湾(静岡県)
※50 子官川(こしがわ)	1,520	63	68	秋田県	日本海(秋田県)

【表中、北海道東北の河川のみを朱書きにする】

### ②総合的な学習の時間と関連させた単元計画の工夫



稲作農業の終末で左のグラフを使用した。今回は問題意識をもたせるための提示とし、「50年後の米の生産量はどうなっているか」「50年後の農業従事者はどれくらいいるのか」を問うたところ、「このままでは日本の農業が危ない」「なんとかしないとイケない」という意識をもたせることができた。

ここをスタートに「50年後の未来もおいしいあきたこまちを食べたい」という合言葉をもとにして、未来の農業を支えるための活動をスタートさせることとなる。

③ ゲストティーチャーの活用、シンポジウムの実施、校外でのPR活動の実施  
ア GTには秋田の農業の現状と課題を教えていただき、この学習から「米の消費拡大」と「就農率アップ」に向けたアイデアを考えていくことになった。

イ 米の消費拡大と就農率アップに関するアイデアをまとめ、農業シンポジウムで基調提案をした。パネリストには市職員、JA職員、若手農業者を迎え、子ども達と意見交流を図った。これをもとにさらに考えを深め、自分たちの考えた農業応援アイデアを学習発表会で提案することとした。

ウ これまでの学習の成果を学習発表会で発表するとともに、きりたんぼ祭りや産業祭で、学習の成果をまとめたPRちらし配りや、学校田で収穫した米の販売を行った。ここでは米の消費拡大を応援するため、米を使った料理のレシピ配りもした。また、ゆるキャラを開発し、PRに一役買わせた。



### 3 成果と課題

秋田県全体を教材化したことで、いかに秋田が稲作先進県であるかを把握させるとともに、秋田の農業の課題を明らかにすることができた。総合的な学習の時間と関連させたことで、明らかに活動の幅を広げることができた。子ども達は就農者が減少し続けている現状や、生産量、消費量ともに右肩下がりの現状にショックを受け、どうにかしなければならないという強烈な課題意識をもち、長い時間の総合の時間を主体的に活動することができた。多少難解な面もあったと思うが、未来の社会を担う人材の素地づくりにはなったと感じている。





## 「ひまわりプロジェクト」から 生まれた学年プロジェクト

大館市立積迦内小学校 教諭 小林 要  
教諭 庄司 静香  
教諭 細田 裕子

### 1 はじめに

地域と活動する積迦内S Pと、それを含めた全校でのひまわり・農園活動「向陽ぐんぐんプロジェクト」を始めてから、4年目となった。これまでは全校でのひまわり活動がほとんどだったが、今年度は3学年で学年独自のひまわりプロジェクトが誕生したので紹介する。

### 2 活動の実際

#### (1) 3年生「はばたきひまわりプロジェクト」の実践

向陽ぐんぐんプロジェクトで3年生が担当する畑が、当初の計画の2ヵ所から1ヵ所になってしまった。「どうしよう。困った。」「でも他にもやりたい。」という声から3年生のひまわりプロジェクトがスタートした。

- ①地域には畑となる場所がないため、校地内のどこに、なぜ植えたいのかを考え、グループを作る。
- ②ひまわりを植えるための許可をもらうため、自分たちの思い（場所・その理由）が相手にしっかり伝わるようなプレゼンテーション（以下プレゼン）をする。
- ③畑作りや種まき、お世話をする。 ④活動を全校に知ってもらうための方法を話し合う。
- ⑤朝会で全校に写真やポスターを使ってお知らせをする。
- ⑥収穫し、活動のふり返しをする。

#### ☆成果

- ・活動の大変さを実感し地域の人たちの大変さが分かったこと、最初から最後まで自分たちだけでひまわりを育てたことから、達成感や自信をもつことができた。
- ・グループでの話し合いや作業、プレゼンテーションや全校への発表を経験したことで、コミュニケーション力が向上したり、協力の大切さを感じたりすることができた。

#### (2) 4年生「ひまわり音頭バージョンアップ大作戦」の実践

##### ①取組のきっかけ

- ・「ひまわりプロジェクト」の振り返りとして、お世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えるため、これまでに踊ったことがあるひまわり音頭を披露しよう。

##### ②「ひまわり音頭バージョンアップ大作戦」～たくさんの笑顔が生まれるひまわり音頭にしよう～（役割分担をして、自分たちの力で成功させよう）

##### 1)歌や踊りをしっかり覚える

- ・練習計画を立てて休み時間に練習した。講師は、本校職員の踊りの達人「畠山さん」

に自分たちで依頼。

## 2) 手作り衣装

・男子用，女子用の大中小の見本を作り，みんなに希望を取って作った。

## 3) 手作り大道具・小道具

・会場の長さを測って輪飾りを作ったり提灯などの飾りを作ったりした。

・踊りの邪魔にならない形や大きさを工夫し，手首や頭に付ける物や団扇を作った。

## 4) 発表会当日

・プログラムや会場案内図を作り，受付やマイクのセットも自分たちで行った。

・踊りの途中でお客様に声をかけて，踊りの輪に入ってもらった。

・最後に，感謝状を手渡した。

## ☆成果

・協力するとやり遂げられることを実感し，新しいことにも挑戦しようとするようになってきた。

・総合の時間は「楽しくて深い」「心をつなげる」など心の成長が見られた。

### (3) 5年生「ひまわりにんにくプロジェクト」の実践

5年生では，昨年度の1／2成人式の記念で植えていた「にんにく」を7月に収穫した。そこで，このにんにくとひまわり油で何か料理はできないかと考え，そこから「ひまわりにんにくプロジェクト」がスタートした。

- |                                    |                         |
|------------------------------------|-------------------------|
| ①会社を立ち上げ，役割を決める。                   | ④校長先生に融資を受けるためのプレゼンを行う。 |
| ②各会社で出す商品候補を選び，婦人会の方と一緒に試食品を作る。    | ⑤会社ごとに商品を作り，販売する。       |
| ③商品決定の話し合いをする。<br>(婦人会の方に入ってください。) | ⑥収支計算をして活動を振り返る。        |

なかなか話し合いがまとまらなかったり，プレゼンの内容が伝わらず融資を受けられなかったりするなど，難しい場面もあったが，地域の婦人会の方に相談したり，会社のメンバーでプレゼンの内容を見直したりと，困難に出合う度に，どのようにしたらいいか，自分たちで解決方法を探り実行できるようになってきた。

## ☆成果

・自分たちの考えたことが具現化され，実体験を伴った自信をもつことができた。

・地域の方とふれ合うなど，「顔の見えるおつきあい」を通して，保護者以外にも地域にたくさん知っている方が増えた。また，釈迦内婦人会の前向きなパワーに触れ，すてきな大人の姿を理想像としてもつことができた。

## 3 おわりに

今年度は，3年生以上が独自の取組を展開することができた。この取組が「社会人基礎力」の3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）に結びついてきている。特に「考え抜く力」が付いてきた。次年度からも各学年独自の工夫した取組を展開していきたい。

# 地域に根ざしたふるさとキャリア教育 「とびっきりの上川沿」の実践



大館市立上川沿小学校 教諭 伊藤 薫 教諭 櫻庭晴美  
 教諭 津谷 徹 教諭 川崎 裕  
 教諭 畠山真由美 教諭 井川良太郎

## 1 はじめに

上川沿地区は学区に沿って米代川が流れており、川沿いを中心に、稲作、畑作、果樹栽培などの農業が行われている。特に中山地区では、りんご、なし、ぶどうなどの果樹栽培が盛んに行われており、りんごが農林水産大臣賞を受賞するなど品質のよい果樹が栽培されている。このように上川沿地区で盛んな農業を小学校のふるさとキャリア教育の学びと結び付け、今年度「とびっきりの上川沿」の取組がスタートした。

## 2 総合的な学習の時間におけるふるさとキャリア教育

学校教育目標	夢いっぱい 未来を拓く 上小の子
--------	------------------

<p>上川沿小学校 ふるさとキャリア教育の目標</p> <p>郷土の自然，人間，文化，産業と触れ合う機会を充実させ，そこから得た感動体験から，自己の生き方を考え，地域社会の一員としての自覚やふるさとの発展に尽くそうという気概をもった児童を育成する。</p>
--

### 総合的な学習の時間

〈共通テーマ〉 とびっきりの上川沿 ～上小ドリーム果樹園・上小米夢（マイ・ドリーム）～			
3年	4年	5年	6年
りんごのひみつ (観察・世話・収穫 ・調査・発信)	りんごを使った製品 の開発(りんごジャ ム)	稲作体験 米を使った製品の開 発(米粉パン)	りんご・米を使った製 品の販売

## 3 各学年の実践

(1) 3年生の実践 地域の特産品であるりんごについて調べ，そのよさを発信

- ① 地域の特産品を知る，触れる，体験する  
(受賞りんご，りんご製品，自分たちのりんごの木の  
観察と収穫までの作業体験)
- ② 特産品のりんごについて発信するための調査活動  
(インタビュー，インターネット，本，図鑑など)
- ③ きりたんぼまつりなどで発信  
(壁新聞，PRカードの配布)



自分たちのりんごを収穫

(2) 4年生の実践 地域の特産品のりんごを使ったりんごジャム作り

- ① りんごジャム作りのきっかけ  
収穫したりんごで作ることのできる製品を考案
- ② ゲストティーチャーを招いてのジャム作り  
酸味のあるりんごがおいしいジャムになることの理解
- ③ 販売へ向けた活動  
「上小発！とびっきりのりんごジャム」と命名  
ラベル作り・ラベル貼り，ポスター作成



皮入り(右)・皮なし(左)ジャム

(3) 5年生の実践 米(米夢マイ・ドリーム)作りと米粉パン作り

- ① 校地の前の田を借りて行った米作り  
子どもたちが夢を叶えるために努力するよう，米の名前を「米夢(マイ・ドリーム)」と命名
- ② 米を使ったパンのアイデアとグループでのプレゼン  
きざんだりんごを入れた米粉パンの開発
- ③ 米粉パン作りと販売へ向けた活動  
「米夢パン」と命名  
サイズや値段決め，ラベル作り，ポスター作成



米夢(マイ・ドリーム)パン

(4) 6年生の実践 りんご，りんごジャム，米夢パンの販売

- ① 生食りんご販売に向けた活動  
シールを使った創作文字・絵入りりんご作り
- ② 接客マナー講習会  
コンビニエンスストアの店長を講師に接客を学ぶ
- ③ 販売活動  
きりたんぽまつり，学習発表会，上川沿ふるさと文化祭での販売



きりたんぽまつりで販売

4 今年度の取り組みの成果

- ① 地域の自然や人，産業とかかわり，さまざまな体験をすることにより，自分たちのふるさと「上川沿」のよさに気付いたり感動を味わったりした。そして，このことがふるさとに対する自信や誇り，地域社会の一員としての自覚へつながってきている。
- ② 地域の特産品のよさを知ることが，子どもたちの「伝えたい，広げたい」という思いをふくらませ，創造性や発信への意欲を喚起した。そして実際に地域の特産品を使った製品を開発・販売したりメッセージを発信したりすることができた。
- ③ 米作りに協力していただいた方々，果樹栽培の農家の方々，ジャムやパン作りの講師，接客マナーの講師など，地域人材を活用することにより，課題意識や課題解決への意欲を高めたり仕事への関心を深めたりした。
- ④ 価値ある商品が作られるためには，おいしい製品の開発や材料と値段の関係などの課題があること，また，商品販売のための接客マナーの必要性について実感することができた。



## 生活習慣とメディアについて ～健康的な生活習慣を確立するために～

大館市立西館小学校 養護教諭 渡邊 香子

### 1 はじめに

近年、テレビやビデオなど従来型のメディアに加え、携帯型ゲーム機等の普及により、以前よりも電子映像メディアに長時間接する子どもが増えてきている。それによって、睡眠不足や朝食の欠食など生活習慣の乱れを招き、これらが原因となって不登校や引きこもりといった症状に向かう例がある。また、外遊びの減少や体力の低下、対人コミュニケーション能力の低下等、子どもたちの心身への悪影響がいつそう危惧される状況にある。

本校では、メディアに接する時間を少なくする取り組みが5年ほど前より行われている。昨年度から本校に勤務したが、すでに年間の行事予定表に組み込まれており、保護者より「今月はスマイルデーがないのですか？」という問い合わせが来るなど、定着していた。

しかし、昨年度、比内地区3小学校と近隣の成章小学校からなる保健部会のグループで、子どもたちのゲーム等のメディアによる影響が話題になり、研究テーマに取り上げることにした。そこで、子どもたちの生活実態を把握するため、メディアに向かう時間と生活習慣のアンケート調査を実施し、課題を見つけ、子どもたちが健康的な生活習慣を身に付けていくことができるようにと考え、諸活動を行った。

### 2 児童の実態

「子どもの生活とメディアについて」「生活習慣について」のアンケート調査より

(平成24年度9月、平成25年度6月に保健部会で実施。)

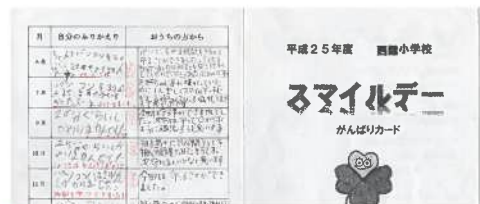
- 平日、「起床時刻が遅い」「朝食を欠食」「就寝時刻が遅い」「睡眠不足」の割合が多い。(※本校は朝食欠食率が他校より多かった。)
- 休日、「テレビの視聴時間やゲームをする時間が多い。」「朝食の欠食が多い。」

### 3 「スマイルデー」について

#### (1) 取り組みの経緯

◎ 平成21年度から実施。

- ア 健康診断結果、低視力の子どもが多い。
- イ 生活アンケートの結果、ゲーム、テレビの時間が長い。〈カードの表裏表紙〉



#### (2) 実施方法

- ① 毎月第2日曜日を『スマイルデー』とする。(児童保健委員会で命名。)
- ② その日に「スマイルカード」で、3項目についてチェックする。
  - 項目1: 「勉強中はテレビをつけない」
  - 項目2: 「夜9時以降はテレビをみない。ゲームやパソコンもしない。」
  - 項目3: 「夕食の時はテレビをつけない。」

(※項目3は、平成22年度から「我が家のスマイル項目」として各家庭で決める。)
- ③ 翌週の火曜日に担任に提出する。

(3) これまでの工夫 〈カードの見開き左側〉→

- ① 今年度のカードの形式に改良。(平成25年度)  
ア 担任のチェック一覧を設ける。(学担と養教がチェック)  
イ 子どものふり返りとおうちの方からのサインとコメント。
- ② 保健だよりに良い取り組みの家庭を全校で紹介。  
◎担任, 養護教諭, 保護者の共通理解を図る。

スマイルデー	6/9	7/14	9/8
勉強中は、テレビをつけない (テレビが映っているところで勉強は取り)	○	○	×
夜9時以降はテレビをみない。 ゲームやパソコンもしない。	○	○	×
(おうちのスマイルデー) パソコンは「おうちで」	○	○	○
おうちのひと確認してがんばりたいことを書いてください。			
おうちの方のサイン/ハンコ			
先生のサイン/ハンコ			

\* できたら、できたらから○や×をつけよう。

(4) スマイルデーの結果

- ① 共通項目の定着。「1 勉強中はテレビをつけない」(88%)  
「2 夜9時以降はテレビをみない。ゲームやパソコンもしない。」(84%)
- ② スマイルデーの定着とカード提出率の増加。

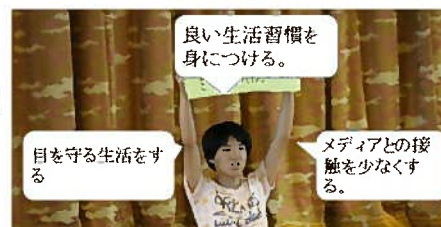
#### 4 その他の取り組み

(1) 学校保健委員会

- ① 学校保健委員会で話題として取り上げ協議し, 効果的な推進を図る。

(2) 委員会活動

- ① 保健委員会による保健集会  
「スマイルデーを考えよう～生活習慣とメディア～」  
(※スマイルデーの意義, 長時間のゲームの害,  
1日のゲームやメディアとの接触時間の基準等)



- ② 保健委員会による「紙芝居」読み聞かせ。  
題名「早起きはいきもち」(※睡眠の大切さ, 早寝, 早起き, 朝ごはん)

(3) 教科、学級活動

- ① 保健講話, 「メディアと健康について考えよう」(県教育庁出前講座)
- ② 学級活動, 「メディアと上手につきあおう」  
ア P T A授業参観時に実施。(学級担任からの要請によりT Tで実施。)  
イ 長時間メディアに接する時間が多い学年に実施。

(4) 保健指導

- ① 栄養士による食育指導。「朝食の大切さ」(H24, 25年度実施)
- ② 生活習慣について追跡調査をし, 個別指導を実施。

#### 5 成果と課題

〈成果〉① スマイルデー等継続した取り組みにより, 良い生活習慣ができたという家庭が増え, 意識化に繋がった。

- ② アンケート調査を実施したことで, 子どもたちの生活実態が明らかになり, 課題を把握することができた。また, 他校との共同研究により効果的な指導法を学ぶことができた。

〈課題〉① メディア依存傾向児童への関わり方。家庭への啓発と共に個別指導を継続する。

- ② 年間を見通した個別指導, 集団指導の実施。(メディアとの良い付き合い方, メールなどによる事故防止について等)
- ③ 家庭への継続的な啓発活動。(スマイルカード, 保健便り, P T A研修会等)
- ④ 幼児期からのメディア接触の実態把握。幼小の連携も今後考えていきたい。

## 平成25年度 教育研究所事業報告

### 1 学習指導方法及び教育内容を充実させるための指導・援助

事業名	事業内容等
①学力向上施策 教科学習推進委員会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準学力検査(NRT)の実施(4月実施)</li> <li>・分析(各校ごと)</li> <li>・第7次学力向上対策 最終評価「教職員による自己評価」</li> <li>「関係機関による評価」</li> <li>・第8次学力向上に関する提言の策定</li> <li>・広報「こころみ」の発行</li> <li>・経費補助(用紙代)学年及び教科</li> <li>【知能検査】</li> <li>小4年・6年、中2年</li> <li>【標準学力検査】NRT</li> <li>小2・3年(国語、算数)</li> <li>小4～5年(国語、算数、理科、社会)6年(理科、社会)</li> <li>中1年(国語、数学、理科、社会)</li> <li>中2年(国語、数学、理科、社会、英語)</li> <li>中3年(理科、社会、英語)</li> </ul>
②情報教育の推進 情報教育推進委員会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用研修講座実施 7月25日(木)午後</li> <li>会場：秋田職業能力開発短期大</li> <li>内容：情報モラル、ビデオ編集、ホームページ作成ほか</li> <li>・情報モラル指導実践事例集第2号発行(2月)</li> <li>・ICT支援員の配置 H25.4月～9月 3名</li> </ul>
③学校訪問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大館市教育研究会「総合研究会」の巡回</li> <li>・指導主事等による学校訪問 小・中学校28校</li> <li>・教育委員による学校訪問(幼保1、小5、中3、おとり教室、なかよしとっと、少年相談センター、幼児通級指導教室)</li> <li>・幼稚園・保育園訪問 9園</li> </ul>
④大館市教育委員会研究委 嘱校への指導・援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休止</li> </ul>
⑤大館市教育研究会	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月11日 第1回総合研究会 教科外部会</li> <li>10月31日 小学校第2回総合研究会</li> <li>10月29日 中学校第2回総合研究会</li> <li>11月12日 教科外「道徳」「特活」「学事」研究会</li> <li>11月13日 教科外「総合」「外国語」「学校保健」研究会</li> <li>11月14日 教科外「学業」「特支」研究会</li> </ul>
⑥教育課程に関する 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度教育課程実施計画書の確認と平成26年度教育課程実施報告書の確認</li> <li>・特別支援学級年間指導計画の作成</li> </ul>
⑦ふるさとキャリア 教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとキャリア教育推進事業 コーディネーターの配置</li> <li>・子どもハローワークの運営</li> <li>・キャリア・パスポートの配付</li> </ul>

### 2 教職員の指導力向上をねらいとした研修会の企画と実施

事業名	事業内容等
①初任者研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 5月8日(水) 市内諸施設及び企業見学</li> <li>第2回 7月24日(水) 保育園体験・教育長講話</li> </ul>
②大館市内諸施設 及び企業等見学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月8日(水) 参加者：初任者、市外からの転入職員(27名)</li> <li>見学：大館郷土博物館、長走風穴館、秋田ウッド等</li> </ul>
③夏季研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月25日(木) 午前 会場：秋田職能短大(215名)</li> <li>○講話 キャリア教育、生徒指導、郷土史、高校入試分析</li> <li>○講話・演習 キャリアインサイト</li> <li>○実技 粘土指導の基礎</li> <li>○説明 特別支援教育年間指導計画作成、指導要録作成</li> </ul>

④特別支援教育支援員研修	※北教育事務所の支援員配置校研修との連携 ※秋田大学「学びの総合エリア」との連携
⑤講師研修会	5月14日(火)、6月20日(木)、8月20日(火) 11月28日(木)
⑥第25回教職員研究実践発表会	1月10日(金) 会場：大館市立中央公民館・市民文化会館 実践発表：保小中高大、少年自然の家から28題 講演：実践キャリアアップ教育 ～役割体験学習論からの教育改革～ 講師：秋田大学 教授 井門正美氏

### 3 市民及び学校の要望に応える教育相談の推進

事業名	事業内容等
①教育相談事業	・大館おとり教室 ～適応指導対象児童生徒への指導・援助 *12月～ スクールカウンセラーの配置 ・早期からの教育相談・支援体制構築事業 幼児通級指導教室「育ちの教室・ぐんぐん」 ・スクールカウンセラーの派遣(第一中・東中・下川浴中) ・心の教室相談員の配置(第二中・花岡中・比内中・田代中)
②いじめ・不登校対策事業 いじめ・不登校対策事業推進委員会との連携	<いじめ・不登校対策事業推進委員会> 会場：大館市立中央公民館 第1回 5月1日(水) 委嘱状の交付、基本方針の検討 第2回 2月5日(水) 事業報告 <学級担任研修会> 休止 <子育て相談会> 会場：大館市立中央公民館 6月7日(金) 講師：斎藤みどり臨床心理士 (相談1名、講話12名) 9月17日(火) 講師：石山宏央SC (相談7名、講話10名) 1月31日(火) 講師：佐々木百合SC (相談3名、講話15名) <ふれあい楽しみ会> 第1回 9月4日(水) 農業体験・野外炊飯 (生徒11名、学生ボランティア5名、教師10名) 第2回 12月6日(金) ケーキづくり、ゲーム (生徒13名、教師14名)
③満5歳すてっぷ相談(親すてっぷ)	・満5歳児の保護者学習会(就学に向けた子育て講話) 年13回開催
④子育てポータルサイト「おおだて子育てねっと」	・メールによる「子育て相談Q&A」

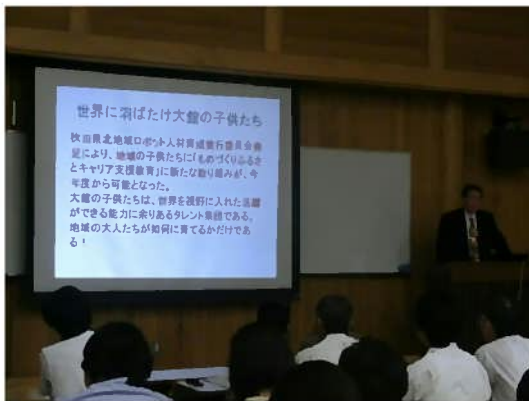
### 4 研修や指導に生かされる資料の収集と情報の提供

事業名	事業内容等
①資料センター事業等	・教育資料の提供 ○学校教育指導の重点(含教育研究所要覧) ○各種調査の結果 ○各学校の取組 ○確かな学力向上の取組/総合的な学習の時間の全体計画 ○大館市教育研究会に関する資料 ○教科学習推進委員会だより「こころみ」
②教科書センター事業	・小・中・高校の教科書展示会の開催 時期：6月14日～28日 会場：大館市立中央公民館 ・教科書の整理・保管 大館教科書センター(大館市田代総合支所3階)
③研究所要覧	5月発行 *学校教育指導の重点と合本 ・教育研究所の年間事業計画等
④所報「教育おおだて」の発行	年2回発行 (62号・63号)
⑤研究紀要「研」の発行	3月発行 ・教職員研究実践発表会の発表内容
⑥調査分析等	・教育全般にわたる諸調査



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校及び不登校傾向調査(毎月)</li> <li>・いじめ不登校調査(6月、10月、2月)</li> <li>・全国学力・学習状況調査の分析と指導改善</li> <li>・県学習状況調査の分析と指導改善</li> <li>・N R T 分析と指導改善</li> </ul>
⑦生涯学習フェスティバル事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示期間 9月21日(土)～9月22日(日)</li> <li>・園児、児童、生徒の作品展示 展示会場：大館市中央公民館</li> </ul>
⑧ふるさとキャリア教育推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大館ふるさとキャリア教育Ⅳの配付</li> <li>・「みんなのまなびしんぶん」の発行</li> <li>・ホームページによる情報提供</li> </ul>
⑨郷土資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふるさと大館名所手帳」の配付 *対象：小学校4年生</li> </ul>
⑩特別支援教育関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学に向けた教育的支援のためのハンドブックの発行</li> <li>・元気カード「早期からの教育相談・支援体制」の作成</li> <li>・早期からの相談と支援(リーフレット)の改訂</li> </ul>
⑪諸団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育関係機関 ・おおだて発人間力創造コンソーシアム</li> <li>・福祉関係機関 ・きりたんぼまつり実行委員会 ほか</li> </ul>
⑫他県・他市町村への情報提供と視察の受入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上(兵庫県篠山市教委、留萌教育研究所、岩手県軽米町教委、東京都港区・荒川区議会、福島県須賀川市議会、沖縄県名護市ほか)</li> <li>・ふるさとキャリア教育(栃木県上三川町議会、新潟県教委ほか)</li> <li>・特別支援関係(由利本荘市、鹿角市、能代市ほか)</li> </ul>

【夏季研修会7.25】



「共存共栄の国際社会において海外で暮らし国際人として活躍する人材を育てるには～日本の常識・非常識」  
(講師：職能短大 田野倉校長)



「大館散策～ふるさと大館名所手帳」  
(講師：大館市文化財保護協会 清野事務局長)



「特別支援教育・就学指導ハンドブックの活用方法、特別支援学級における年間指導計画の作成」  
(講師：比内養護学校 小笠原教育専門監 畠山教諭)



「造形～年度を教材とした指導の基本、活用のためのアイデア」  
(講師：クラフトリオ)

